

英国春秋

2026年 春号
ISSUE 48 (令和8年)
発行 英国日本人会

はじめに



今年も沢山の^{おうばい}黄^{ばい}梅が咲きました。11月頃から春先まで、垂れ下がったつる状の枝いっぱい、黄色で小さな6弁花を付けます。ウィンタージャスミンとも呼ばれるそうですが、夏に咲くジャスミンのような香りはありません。日本では梅のような香りがするものもあるらしく、それで黄^{おう}梅と呼ばれるようですが、モクセイ科に属し、梅とはDNAを共有していないようです。花が終った後も、つる状の枝ぶりがおもしろい姿なので、生け花の副えに使ったりしています。中国では早春にかけて咲く花として、迎春花と呼ばれているそうです。

映画館で大型スクリーンの『国宝』を観ました。評判が高かったので期待感は大きかったのですが、映像の美しさ、物語の面白さ、俳優たちの好演技、抒情的な音楽などが相まって、超大作の3時間が、あっという間に過ぎてしまいました。特に歌舞伎の名場面が次々と映し出され、それが本筋にうまく溶け合って、まるで綾錦を織り成して行くがごとく、その美しさには幾度か息を飲まなければならなくなりました。本物を観る機会のほとんどない歌舞伎ファンにとってはまさに至福のひと時。降りしきる雪の中、白い振袖姿の鷺の精が、人間界での叶わぬ恋を諦め、雪の中に消えて行く「^{さぎむすめ}鷺娘」は思わず溜息をつきたくなるほど幻想的で哀れ。赤い衣装で恋に狂った清姫を、芸の上でのライバル同士が、互いに競い合いながら、激しく舞い狂う「二人道成寺」はその熱気が伝わって来るよう。そして「曾根崎心中」では「・・・死に行く身をたとうれば あだしが原の道の霜 一足ずつに消えて行く 夢の夢こそ哀れなり・・・」と切々と謳い上げられる中、死ぬ覚悟の二人が、倒けつ転びつしながら花道を行く場面は、その切なさに思わず涙してしまいました。この道行のうちの一人が、余命幾ばくもなく、これが最後の舞台だと知らされていたからでもあったのでしょうか。歌舞伎の世界で、血筋か才能かを競う二人の役者の葛藤を中心に、絢爛豪華な歌舞伎の18番を散りばめて展開しながらの『国宝』は、日本文化の素晴らしさを改めて思い知らせてくれたと言っても過言ではないように思えました。

日本では、昨年10月、高市早苗政権が誕生しました。その後、11月の一時帰国中、テレビで国会答弁などを見聞きして、すっかり高市ファンになってしまいました。まずあの笑顔と、人懐っこい仕草と、人と国旗にされる丁寧なおじぎと、真摯な態度に、彼女への好感度があがる一方。政治に対する私の関心度の針がビューンと跳ね上がってしまい、思わず、「応援します！」と声をかけたくくなりました。早速、彼女の言葉、「働いて、働いて、働いて、働いて参ります」が昨年度の流行語大賞を受けたそうです。私は年金受給者ですから「働いて」は事実上もう実行不可のようです。それに目や耳そして体の働きが少々怪しげになってきましたが、我が脳だけには、高市総理の言葉、「働いて、働いて、もっと働いて」で発破をかけようと思っています。年初より諸問題続出で、世の中が騒然としてきましたが、日本国のリーダーとして、何とかこの荒波を乗り切っていただきたいと考えています。

第二次大戦から80年後の現在、人間はそれから何も学んでこなかったと思えば、残念でなりません。平和を祈願して作り上げられた“国際法”を無視して戦争や領土掠奪を試みようとする為政者たちに対して、それを阻止出来るのは、我々の他に誰がいるのだろうかと問いかけずにはおれません。

令和8年2月

* * * も く じ * * *

はじめに		2
もくじ		3
私の音楽遍歴	加藤節雄	4
知ってびっくりするフランスの童話	正木裕子	5～7
『マリモ（毬藻）の歌』	ビドル恵	8～11
英国春秋歌壇 暖かき街	バロウ典子	12
心理療法とは何かー精神分析的な心理療法の魅力ー	島村正和	13～14
「元気をもらおう」	須永静江	14～15
「ボヴァリー夫人は私だ」	原田孝雄	16～18
春秋あれこれ		18
三輪精舎の法語板見えなくなったのは 死でなく 私たちの目	石井建心	19
黒 髪	小川のり子	20～21
古典籍スクール 19・20 黄表紙の世界・歌舞伎の女形	ブランド啓子	22～24
英国春秋俳壇 冬 至	エリオットつや子	25
ロンドン自然史博物館・進化園	須永静江	26～27
イギリスに感謝	渡辺総一郎	28
恐怖でブルブルとなった話	内田みつえ	29～30
「笑い話」一編・「私はダボハゼ」	石山 望	31～32
春秋あれこれ		32
「四方山話」駄洒落・洒落・洒落者について	ネット文化サロン	33～39
春の到来	田村陽子	40
「椿の花」に思う	一 静 斎	41～43
帰 郷	園部健治	43～44
大阪見聞録	浜口理枝	45～47

特別寄稿

石井建心氏
園部健治氏
原田孝雄氏
正木裕子氏

三輪精舎舎主
在英日本国大使館参事兼領事
元在ロンドン金融会社勤務
ブラッセル在住
ソプラノ歌手・欧州委員会職員

(アイウエオ順)

私の音楽遍歴

加藤節雄

もちろん私の子どもの頃には、アニメやゲームはなかったので、子どもの楽しみと言えば、野山を散策したり、小川で釣りをしたり、かくれんぼ、ベーゴマ、カルタ、虫取りや蝉取りぐらいだった様に思う。小学生になってからは、音楽の時間に童謡や唱歌を学んだ。他の教材もなかったのか、音楽の時間はもっぱら先生のオルガン伴奏で、数々の童謡をクラス全員で歌ったのを覚えている。



そのためか、今でも「春が来た」「ウサギ」「赤い靴」「カゴメ」「通りゃんせ」「コガネムシ」「あんたがた、どこさ」といった童謡は、歌詞は定かではないのだが、メロディーは覚えている。今の小学校が音楽の時間に昔からの日本の童謡を教えているのかどうかは分からないのだが、私としては良い経験だったと思っている。

英国に来てからは日本の童謡を聴く機会もないが、それでも。日本人のコーラス・グループのコンサートなどで、懐かしい童謡を聴くと、なんとなく嬉しくなり、オリンピックで金メダルを取った日本選手の栄誉をたたえる「君が代」の演奏を聴いているような気分になったりする。

子供の頃には自分で言うのもおかしいが、歌をよく覚え、上手に歌えたと思っている。童謡だけでなく、当時ラジオで聴いた流行歌も皆の前で良く歌った。三橋美智也、春日八郎、橋幸夫、フランク永井の歌を得意としていた。

然るに、いつ頃だったか、多分中学校の頃だったと思うが、音楽の時間にテストがあり、皆の前で一人一人が歌わされたことがあった。曲名は覚えていないのだが、かなり高低がある曲だったと覚えている。その時は緊張したせいか、或いは声変わりのせいか、高い声が出ないのである。音階の高い部分になると、音階を急に一段下げて歌わざるをえなくなり、一つの歌を歌うのに音階が上がったり下がったりで、そのテストは散々な結果となった。

それ以来、人前で歌うのが嫌いになった。日本ではよく宴会や何かの打ち上げの際に、一人一人に強制的に歌わせる習慣がある。私はいつもいろいろな理由をつけて拒んでいた。

そのころからカラオケが流行り出した。付き合いでカラオケバーに行っても楽しめないのである。皆、恍惚として歌っている。機械がエコーを効かせてあるので、誰もがプロの歌手の様な気分になる。私はと言えばムスッとしてカウンターでウイスキーをちびちび飲んでいるだけである。

英国では強制的に歌わせられることは先ずない。それを良いことに人前で歌うことは避けてきた。だからと言って、音楽が嫌いと言うわけではない。英国に来た70年代の始め頃には、ブリティッシュ・ロックの最盛期だった。テレビでもラジオでもパブでもロック音楽が一日中流れていた。コンサート・ホールやライブハウス、野外のロック・フェスティバルにも出かけた。ディスコに出かけて、夜遅くまで踊っていたことも度々だった。

現在は特にこれといった音楽の好みはない。クラシック音楽はよく聴くが、最近よくスペインを旅行するので、スパニッシュ・ギターやフラメンコの歌が好きになり、CDでよく聴いている。童謡から始まった私の音楽遍歴も、あらゆる種類の音楽を聴いてきたが、これといった一つのジャンルには入り込まず、環境の変化や好みの問題で、いろいろ変化してきた。音楽は時代とともにあり、そして、自分も時代とともにある、と、言ったところだろうか。



知ってびっくりするフランスの童謡

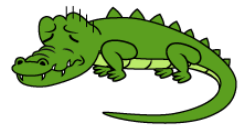
正木裕子

クリスマス、お正月もあつという間に過ぎて、春の訪れが待ち遠しいこの頃です。イギリスからドーヴァー海峡を渡ってたどり着くヨーロッパ大陸のフランスの海岸、マルデイグラの祝日、ダンケルクの街では、きっと、カーニバルで大賑わいのはずです。昔、この港町の漁師たちがこの時期にアイスランド方面に数か月わたって漁に出ることをお祝いして始まったお祭りだそうです。ダンケルクだけでなく、大陸西ヨーロッパの各国ではそれぞれ地域独特のカーニバルの伝統があり、特徴的な民謡も欠かせません。それらの民謡はいわば、おらが町、のテーマソングとなっています。このメロディーを聞くと、人々は故郷への郷愁をおなかの底から感じるのです。日本でいうとすれば、夏祭りの笛や太鼓のようなものでしょう。お祭りという体験をとおして、メロディーやリズムが体の中に染みつくのです。

さて、私は、多国籍文化が共存しているベルギーのブリュッセル市で子育てを経験しました。そして、フランス語圏の幼稚園で園児の一保護者として色々な歌を幼児たちと一緒に歌ったことはとても楽しい思い出です。童謡体験、は、これもまた、お祭りの民謡と同じように体の中に染みつく記憶です。最近、ふと思い立ってその歌詞の内容を再度読んでみました。すると、他愛ない幼児の歌、と思って口ずさんでいた可愛いメロディーの中に、実は意味が深い曲がいくつもあることに気が付いたのです。今日はその中から、私の独断でフランスのびっくり童謡 6 選をご紹介しますと思います。

悲哀度ナンバー 1、ワニのうた

「一頭のワニが戦争に出かけるとき、彼は小さい子どもたちに、さよなら、といいました。重たい足を埃の中に引きずりながら、彼はゾウたちと戦うために出発したのです。ああ、ワニ、ワニ。ナイル川のほとりに行ってしまった彼のその後について、誰もそのことを語らない。」 なんと、悲しい歌でしょう。しかし、曲想は底抜けに明るく陽気な行進曲です。非常に矛盾しています。19 世紀後半、お決まりの異国趣味を題材にしたオッフェンバックのオペレッタが原作だそうです。遠いエジプト、を想像して歌っています。歴史の事実とは無縁であることがせめてもの救いです。



お気の毒度ナンバー 1、末っ子ルーセルのうた

「末っ子ルーセルは家を三軒持っている。でもその家には梁も垂木もないあばら家。それは燕さんを泊めてあげるお宿なのです。ルーセルさん。あなたは本当にお人よし。末っ子ルーセルは服を三着持っている。黄色い服が二着にもう一着は灰色の紙でできている。それを彼は、凍てつくときも、雨が降ろうとも、アラレが降ろうとも、いつも着ている。あなたは本当にお人よし。」末っ子ルーセルは、フランス革命を推進するサンキュロットと呼ばれた兵士でした。1743-1807 にフランス Auxerre に実在した司法執行官 Guillaume Joseph Rousselle の風変りな様子を、意地悪ではなく、親しみを込めて風刺した歌。あなたはなんて運が悪いの、お気の毒、と歌っています。

思いやり度ナンバー 1、くもさん編み物

「板の上で蜘蛛さんが長靴を編んでおりました。瓶の中ではカタツムリがささっとパンツをはいておりました。僕は空中でハチミツを舐めたハエがギターをつま弾いているのを見ました。その音にびっくりしたドブネズミはみ告げの鐘をファンファーレに合わせて高らかに鳴らしました。」早春の庭でチューリップの小さい花芽を食べつくしてしまうカタツムリやナメクジ、は、実は私にとっては、あまり有難い

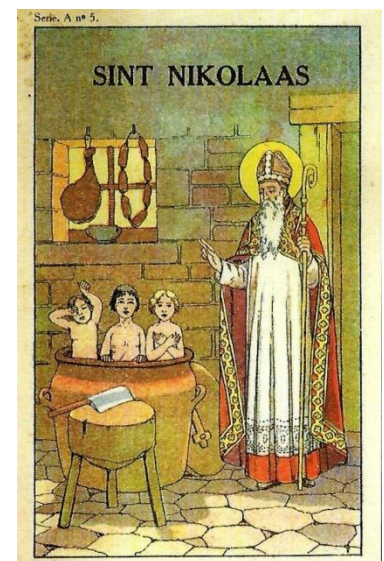
と感じる生き物ではありません。身近な生き物を取り上げて、憎いどころか、可愛らしく歌っているところがおどろきです。クモ、が苦手な方、いかが思われますでしょうか。

温度差ナンバー1、みどりのねずみ

「僕は芝生の上を走っている緑色のねずみを捕まえた。その尻尾をつかんで持ち上げて、この紳士たちに見せた。紳士は僕に言った。そのねずみを油に漬けて、水に漬けなさい。そうすれば、あつあつのエスカルゴになるよ。」なんと残酷な歌でしょう。煮立った油と冷たい水。断末魔の叫び声が聞こえてきそうです。みどりのねずみとは、一説では、フランス革命の際の敵軍の緑色の軍服を着た捕虜とあります。紳士とは、上官たち。あつあつのエスカルゴは、ご褒美なのだとか。ペロッと食べると、美味しいのでしょうか。疑問です。

サスペンス度ナンバー1、小さな船乗りの歌

「あるところに一人のこどもの船乗りさんがおりました。彼は初めて帆船で長い航海に出航しました。5, 6週間が経ったところ船の食べ物が底をつきました。そこで船員たちはくじ引きで誰が食べられるか決めることにしました。すると、可哀そうな小さい船乗りさんが食べられることになってしまいました。誰かが、フライにして食べよう、また他の誰かは、フリカッセの煮込み料理にして食べようと言いました。その間に小さい船乗りさんは船のマストによじ登って高いところに逃げました。そして、神様に向かって祈りました。そのとき、信じられない魔法が起きました。何千匹もの小さいお魚が海から船の中に飛び込んできたのです。こうして、小さい船乗りさんは命を救われたのです。「オエオエ」ダンケルクの街の漁師さんたちのように、アイスランドに向かって出航していたのかもしれませんが。航海は命がけの仕事だったのでしょう。それにしても、間一髪で、命拾いをするお話には、ドキドキします。実際、魚群が船に飛び込んでくることはあり得るらしいです。幼い少年が、一心に祈りを捧げるとその願いが叶えられたという信心の教訓もあります。



食肉文化反映度ナンバー1、サンニコラの伝説



「むかしむかし、3人の子どもたちが道に迷ってしまいました。夜になったので、肉屋さんにひと晩の宿を頼みました。子どもたちが部屋の中に入るなりすぐに肉屋は子どもたちを殺して肉の塊にし塩漬けにして、樽に詰めました。その7年後、サンニコラが肉屋を訪れてひと晩の宿を頼みました。そして7年前の塩漬け肉を食べさせてもらえるよう肉屋に頼みました。それを聞いて、肉屋は驚き、一目散に走って逃げ出しました。サンニコラは樽の上に手をかざしました。そうすると、3人の子どもたちは無事に生き返ったのです。」サンニコラは実在した人物で、西暦265年頃、当時ビザンチン帝国であったPataraに生まれました。オランダではシントクロース、ベルギーではサンニコラとして12月に子どもの守護聖人としてお祝いをします。サンタクロースのモデルとも

もいわれている人物です。いきなり肉屋が子ども3人を塩漬けにしまうのは、食肉の文化がある国でなければ出てこない発想です。

これらの歌は、詞の内容が美しいとか、夢があるというよりも、大変現実的であったり、社会的背景が見え隠れしています。ブラックユーモア、というよりも、真剣に考えてみると身の毛がよだつものもあります。

それでは、英国や日本の童謡の例はどのようなものがあるでしょう。

英国のマザーグースの歌は子どもの伝承歌として有名です。谷川俊太郎が翻訳した日本語の詞だと、私にも内容がよくわかります。たとえば、氷の上にやかんをおいてお湯を沸かしてお茶をしましょう、と誘う、不条理な面白さがある曲があります。それには英国独特のユーモアのセンスを感じます。マザーグース、を直訳すると、がちょうおばさん、となるのでしょうか。その人物の由来については非常に興味深いです。これから調べてみたいです。

日本の場合、大正期に童謡運動がおこり、児童文芸誌「赤い鳥」（1918年創刊）に掲載された児童文学の多くが芸術的な子どものための歌となりました。西條八十の「かなりや」、野口雨情の「十五夜お月さん」、北原白秋「赤い鳥小鳥」などは現在でも人々に歌い継がれています。時を経て、現在では様々な童謡が誕生して愛唱されていますが、文芸誌「赤い鳥」の作品の数々に代表される美しい日本語の子どもうたは、日本が世界に誇るべき文化であると言えるでしょう。



童謡は、いわば、子どもたちにとって、こころのおやつ、とも言われます。私は、偶然に日本とフランスの二つの童謡のおやつを実体験することができました。まるで、人生で二度、幸せな幼児期を過ごすことができたような気持ちです。これからも、各国の童謡を通してヨーロッパの習慣や歴史を知ることがとても楽しみです。

参照ワニのうた

Ah les crocodiles <https://youtu.be/1T9b0cax6s4?si=wf02PsT4Gpev596q>

末っ子ルーセル

Cadet Rouselle https://youtu.be/MwgJrnz5o4k?si=X2f1sODpYbyvRY_U

くもさん編み物

Sur le plancher une araignée
https://youtu.be/c-il8d1nlNE?si=Wme_bYJE5BDI89Pb

みどりのねずみ

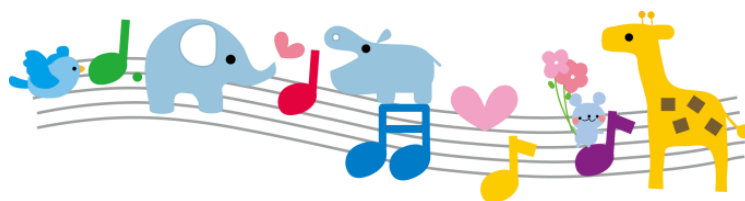
Une souris verte
https://youtu.be/2rt2g_afiAg?si=_ExrMxSGYoLLorq4

小さな船乗りがおりました

Il était un petit navire
<https://youtu.be/3RT5Ayc2SNQ?si=W1M9VJS8iMn6iD1t>

サンニコラの伝説

La légende de Saint Nicolas
https://youtu.be/mZZqwKZVLbE?si=U05YffAXo_UbdCc8



『マリモ(毬藻)の歌』

ビドル 恵

私の出身地は北海道の足寄(アショロ)町です。同級生、松山千春のおかげで、昭和 54(1979)年頃から町の名前は次第に有名になり、今では全国的にも知られる様になりましたが、地理的にいまいちピンと来ないという方、先ず、北海道を菱形とイメージしてください。其れを、十字(四つ)に割った右下の“東南部分”が十勝、釧路、根室地方です。足寄郡足寄町は其の十勝地方の最北端に位置するので、十文字のかなり中心近くに在ります。もうご想像いただける通り、昔はトドマツの原生林に覆われた、和人未踏の山岳地帯でした。

明治 33(1900)年、伐採を目的とした開墾が始まり、木材を運び出す目的で、利別川と足寄川の合流する地点に鉄道(池北線)が引かれて出来上がった町です。経済成長期には、酪農や豊富な水源を利用した水力発電の開発が盛んになり、一時期は人口が 25,000 人に達した事も有りますが、悲しいかな現在は 5,000 人以下。過疎化が進んで、鉄道もかなり昔に廃線となりました。

昭和 28(1953)年に、釧路の阿寒町と帯広市を結ぶ国道 241 号線が開通して、其の通過地となった足寄町は『阿寒国立公園』に十勝側から入る玄関口と呼ばれ、駅前観光バスの発着所が出来ました。父は足寄町の将来性に希望を持つと、帯広市から一家を引き連れて越して来ました。最初に塗装業の看板を揚げたのが東二区です。はい、“とかち新聞”とは隣近所でした。おまけに私と松山千春は同い年だったので、小学校から高校一年生迄、ずーっと一緒でした。



北海道の地名はアイヌ語を基本としているので、小学校に入ると先ず、足寄町の名前の由来から教わりました。足寄はアイヌ語のエソロベツ(沿って流れる川)から来ているのだとか。其の昔、アイヌの人々がクシュル(釧路=通り道)からアカン(阿寒=不動)の山々を越え、流れる川に沿ってトカプチ(十勝=痩せた土地)に降りた為に、付けられた名前だそうです。



昭和 39(1964)年の東京オリンピックの後、高度経済成長の波が足寄町にも押し寄せて来て、観光の奨励に拍車がかかりました。観光バスの発着所に設置されたスピーカーからは、『ピリカ ピリカ』『マリモの歌』といった、アイヌ民謡や綺麗な歌謡曲が流れました。当然の如く、小学校では此の歌の意味や、其れに纏わるお話を教わり、音楽の時間には文部省推薦の童謡唱歌に加えて、此れ等の歌を唱いました。

♪ ピリカ ピリカ

タントシリ ピリカ イナシクル ピリカ
ヌンケクスネー ヌンケクスネー

此れは手を叩きながら歌うアイヌの仕事歌で、「綺麗だ、綺麗だ、今日は良い天気だ、流れる雲も美しい、さあ、やるべき事はやろう」といった意味だったと記憶しています。うろ覚えで申し訳ないのですが、聴いていると楽しくなるリズムの歌でした。其れから足寄町には、人の背丈程に伸びる“ラワン路”が自生していて、其の下に住む“コロポックルの神様”の話も教わりました。

狩猟が道楽の父は使用するライフル銃(ウィンチェスター)以外の狩猟道具は、何故か？全てアイヌ語で呼んでいました。仕込み矢“アマッポ”の使用は禁止されていましたが、例えば鹿笛は“イパプケニ”、

仕留めた獲物を捌く山刀は“マキリ”といった風にです。そして熊狩りで山に入る前には、必ず神様に祈りを捧げる事を諭した『カムイエロキ・ヌプリ(神様の遊ぶ山)』という話を聞かせてくれました。

こうして身近に、アイヌの言葉や昔話がありましたので、父も私も一応、和人ですが、アイヌ文化はとても親しみ易く、先祖の何処かにアイヌの血が入っているのではないかと、だとしたら良いなあ〜と願う、子供時代を過ごしました。

長い書き出しになってしまいましたが、春号の特集は嬉しい事に「私の好きな童話、おとぎ話、童謡、唱歌」との事。私の記憶に一番、鮮明に残っている『マリモの歌』と、其の背景となった『恋のマリモ伝説』を紹介したい〜と思い立った次第です。但し、随分と昔に聞いた話なので、原作とは少々異なる部分があるかも知れません。其の上、既に色々な出版物にも紹介されているようですから、一語一句、違わずに書いてしまったら著作権の侵害にも成りかねませんので、私なりの解釈が入っています。その辺はどうぞ御了承くださいませ。

♪ 水面を渡る風寂し 阿寒の山の湖に
浮かぶマリモよ何思う マリモよマリモ 緑のマリモ

晴れば浮かぶ水の上 曇れば沈む水の底
恋は悲しと嘆き合う マリモよマリモ 涙のマリモ

アイヌの村に今もなお 哀しく残るロマンスを
歌うマリモの影寂し マリモよマリモ 緑のマリモ



此れは、阿寒湖畔に大勢の観光客を呼び寄せるキッカケとなった『マリモの歌』です。作詞は愛知県出身の岩瀬ひろしで、雑誌社に勤めていた昭和27(1952)年に北海道を訪れ、阿寒湖畔の美しさに魅了されたのだとか。雑誌『平凡』に、阿寒国立公園の紹介記事が掲載され、同時に観光推奨歌を募集していると知った岩瀬ひろしは、マリモを初めて手に取って見た時の感動と、其れに纏わる民話を元に、此の詞を書いたそうです。其の後、岩瀬ひろしはプロの作詞家になり、代表作には『黒猫のタンゴ』があります。



作曲は八州(ヤシマ)秀章で、彼は羊蹄山の麓、蛇田郡真狩(マッカリ)村出身です。此の歌の他に『あざみの歌』『さくら貝の歌』『山のけむり』などのヒット曲があり、レコード大賞・童謡賞や、勲四等端宝賞叙勲の輝かしい功績を残した作曲家です(次男はミュージカル俳優の沢木順)。

昭和28(1953)年の3月に、北見市出身のコロムビア歌手・安藤まり子が歌って大ヒットしました(YouTubeでも見る事が出来ますので、是非、探索してみてください)。

阿寒は、アイヌ語の“アカン”其の儘で、不動という意味です。阿寒国立公園には、旧火山の雄阿寒岳(1,370m)、阿寒富士(1,476m)、活火山の雌阿寒岳(1,499m)といった山々が連なっています。アイヌの人々は、何時も其処に存在する＝不動の山嶺を、そう呼んだのでしょうか。阿寒湖は、其の雄阿寒岳の火山活動で出来たカルデラ湖です。水の透明度は元より、近隣には大きな温泉街とアイヌ・コタン(村)が在って、其の伝統文化にも触れる事の出来る、道東屈指の観光地となりました。

此の歌の主役である“マリモ(毬藻)”は、水中に棲息する糸状の藻の事で、普通は水底に浮遊しています。其れが堆積/集まって塊を造り、風や波の影響で回転して玉状になったものです。此れは色んな所で見られるそうですが、直径15cm以上のマリモが群棲するのは阿寒湖だけで、世界でも稀だという事です(此方も展示館が在って、生きているマリモを間近に見る事が出来ます)。

＊

さて、マリモに纏わるアイヌ民話の方ですが、一番知られているのは『マリモの歌』の元となった『恋のマリモ伝説』です。小学校では此方を習いました。しかし、此のお話は元々、アイヌ民族に受け継がれて来た話ではなくて、如何やら和人(シャモ)が創作したらしいのです。

平成29(2017)年8月22日の北海道新聞に、アイヌ民話『恋のマリモ伝説』は、大阪の出版社社長・永田耕作という人の創作である～といった内容の記事が掲載されて、がっかりした記憶があります。けれども、本人の記述によると、全くの創作ではなく「アイヌの人に聞いた話を元に、筋や名前を変えて作文した」との事でした。話はこんな風です。



昔、湖の畔にあるコタン(村)に、セトナという美しいアイヌの娘が居た。セトナは長老の娘で、結婚しても良い年頃になったので、長老はシャモ(和人)の権力者と話し合い、両民族間の平和の証として、娘と権力者の息子との婚約が決められた。

しかし其の息子は権力を傘に着た、ウェンペ(愚かな怠け者)だった。酒飲みで働かず、乱暴で弱い者を虐めたり、生き物を理由も無く殺しては悦に入っている、愚かで嫌な男だったので、いくら父親の命令と言えども、セトナは素直に受け入れる事が出来なかった。そしてセトナは、村の青年マニペと、密かに想い慕いあっていた。

しかし、長老の娘と村の青年では、身分の違いもあって認めて貰えず、セトナは父の決めた男と結婚せざるを得なかった。セトナの婚約話を知った村の者は「お気の毒に…」と優しい言葉をかけてくれるのだが、セトナのいない所では「家の娘は綺良が悪くて助かったわ～」と胸を撫で下ろしていたそうだ。

一方、自分との婚約を喜ばず、結婚の日を延ばそうとするセトナに、権力者の息子は腹を立てていた。セトナに纏わりついて様子を伺っている内に、セトナには他に好きな男がいるらしい事に気付いた。

其れが、村の青年マニペだと突き止めた息子は、嫉妬に狂ってマニペを殺してしまおうとした。だが、酒浸りの怠け者の男が、毎日狩りに出て鍛えられた、逞しい青年マニペに敵う訳が無く、返り討ちに遭ってしまう。息子を亡くしたシャモの権力者は激怒し、両民族は再び歪み合うようになってしまった。

罪の意識に苛まれて、湖の畔に佇むマニペの元に、全てを知ったセトナが駆けつけた。此の世で叶わぬ運命を嘆いた二人は、丸木舟で月明かりの湖に漕ぎ出して行き、湖の底で結ばれようと身を投げてしまった。美しい娘セトナと青年マニペの激しい恋の魂は、丸い藻に姿を変え、湖の底で永遠に生き続けた。

娘の気持ちを思いやれなかったアイヌの長老は、丸い藻(マリモ)を“トーラサンペ(湖の妖精)”と呼んで畏れ、村の者に禍が降りかからないよう、代々、祈り続ける事になったとさ。

ね、綺麗で哀しい話でしょう？ 此の物語と歌のお陰で、阿寒湖畔に観光客が殺到したのですが、当のアイヌ人の方々は、どんな感想を抱いてるのか？知りたかったです。

阿寒湖畔のアイヌ工芸協同組合長さん曰く、

「内容が面白くて、観光を盛り上げているので、今後も紹介して良いんじゃないですか」との肯定的な反応で、阿寒観光協会の街づくり推進機構も、同様な意見だそうです。

では、公平を期して、アイヌの人達に受け継がれている『マリモ伝説』の方も紹介いたします。

昔、阿寒湖には沢山のペカンペ(菱の木)があった。しかし、トーコロカムイ(湖の神様)はペカンペが嫌いだった。落ちた実を間違って踏むと物凄く痛いし、湖一面に張り詰めると見苦しい。其の上、アイヌが此のペカンペの実を取りに来て、湖が汚れてしまうので、トーコロカムイはペカンペに何処かへ行って貰いたかった。

ペカンペは何とか湖の畔に居させて貰おうと、神様の機嫌をとり、「私達の実は、アイヌの役に立っているのだから～」と懇願したが、受け入れられなかった。

怒ったペカンペは大勢の仲間と一緒に、湖畔に生えている草や藻を筆り取っては丸め、トーコロカムイに投げ付けて、去って行ったんだとさ。

其の草がマリモ(毬藻)になって、湖の底を埋め尽くしてしまい、阿寒湖の周りには、一本も菱の木が生えていなのだ。

大正10(1921)年にマリモは天然記念物に指定されましたが、観賞用として東京などの都市部で販売されて、乱獲が進んだ事と、水力発電所の設立などで阿寒湖の水質/水位に影響が出て、昭和20(1945)年代には絶滅の危機に瀕していました。此れを憂いた阿寒の人達は「全国に売り捌かれたマリモを買い戻して湖に返そう」という“まりも返還運動”を始めました。そして、昭和25(1951)年の秋に、とうとう“マリモを湖に返す儀式”が執り行なわれるに至りました。此の儀式は『まりも祭り』となって現在も受け継がれていて、阿寒の秋の風物詩になっています。

時代は高度経済成長期に突入する数年も前の事で、日本に於ける自然保護運動の黎明期でしたが、阿寒湖畔では逸早く、住民主導の自然保護活動を行っていた訳です。又、此れがきっかけとなって、昭和26(1952)年にマリモは、国の特別天然記念物に定められたそうです。



足寄町は阿寒に近い事もあって、延々と続く山波や高原、水量の豊富な河川、神秘的な湖、深い森と沢山の野生動物、火山に温泉といった、多様な自然環境に恵まれていました。春になれば、母や兄姉と山菜取りに、学友達とはスズラン(鈴蘭)目当てに、山に入りました(熊が出没する様な山奥ではありませんけどね)。雌阿寒岳と阿寒富士を背景にした秋の“オンネトー湖”の、あまりの美しさに感動して、何とか絵に描きたいと試行錯誤したものです。其の雌阿寒岳から流出する、温泉の湯量の多さと湯の華が自慢だった(現在は火災で消失し、再建が望まれているとか)“野中温泉”も懐かしいです。

という訳で、何やら宣伝めいてしまいそうですが、里帰りした時は必ず阿寒湖畔の“鶴雅”に滞在するのを常としています。そして、お土産は何と言っても“マリモ・プリン”。昔は、緑色に着色した羊羹を丸い風船に詰めた“マリモ羊羹”が名物でしたが、食べるとゴムの味がしてガッカリした記憶があります。でも“マリモ・プリン”は全然違います。添えられたシロップをかけて食べると美味しいですよ。



話を元に戻しましょう。阿寒湖畔にはアイヌ民族の伝統が色濃く残っていて、祭りや工芸品、食文化などを通して、人と自然が共生している事を実感させてくれます。春の芽吹きと夏の輝き、秋の彩りと冬の静寂～といった季節の移ろい、自然と動物と人が寄り添いながら命を紡いでいます。最後に、工芸品店のオーナーさんが、彼の先輩から聞いたという言葉をお返しに、此処に記しておきます。

アイヌは自然の利子で食べていて、元金には手を付けない。

そうすると良いサイクルが出来て、ずっと生きて行くことが出来るのだ。

アイヌ民族は文字を持たなかったもので、生活の知恵や歴史は、全てユーカラ(叙述詩)やウェペケレ(昔話)にして、年長者から若い者へ、お祖母さんから孫達へ、口承で受け継がれて来ました。其の中には天地創造から神々の誕生、様々な生き物と人との関わり合い、生きて行く上での教訓など、良い話が沢山あります。其れを聞いて育った私の子供時代は、普通の子より少しだけ彩り豊かで、面白いものだったと思います。ご通読に感謝すると共に、今後も、こういったお話を紹介する機会があれば良いな～と願っています。

英国春秋歌壇

バロウ典子

暖かき街

紅葉の 枝葉を透かして 見る空の
日々に広がり、秋は深まる

夕日背に 鈴のみ残す 鈴懸の
大樹しづかに 冬を待ちおり

香港にて

冬のない 暖かき街 香港は
孫の住む都市 われらの被寒地

香港の ミッドレベル という場所は
曲がりくねって バスの行く道

冬なれど 緑豊かな 香港は
オーバーコートを着る 人もなし

冬の日も 人波多き 香港の
ルーパーズベイに 遊ぶ人々

香港に 近き中国 広州市
道行くヤングの ハイファッション

中国の 進展早し 行き着きて
今や追い越す すでに追い越しや

英国にて

灰色の空 背景に はだか樹は
凛々しく立ちて われを励ます

風寒き 庭に生ひたる 辛夷樹の
つばみ真っ直ぐ 天を指しおり

きさらぎの 寒さにめげず
咲き出づる スノードロップス 小さな天使

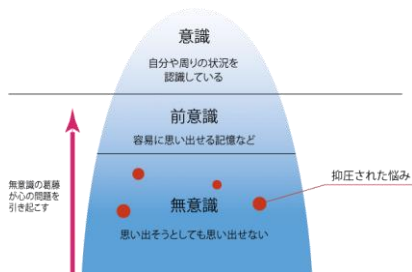
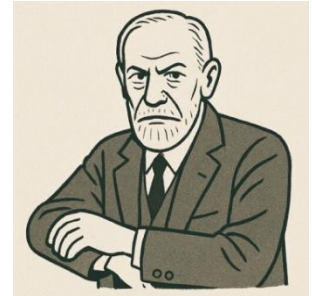
心理療法とは何か

－ 精神分析的心理療法の魅力 －

島村正和

私たちは日常生活の中で、悩みや葛藤、言葉にしにくい感情を抱えながら生きている。人間関係の行き違い、理由のわからない不安、繰り返される失敗や苦しみなど、私たちの心にはしばしば自分自身でも理解しきれない動きがある。心理療法とは、こうした心の問題を専門的な関係の中で見つめ直し、理解し、変化へとつなげていく試みである。単に問題を解決するための技法というよりも、人間の心を深く理解しようとする営みであり、自己理解と成長のプロセスでもある。

心理療法には多くのアプローチが存在する。行動に焦点を当てるもの、思考のパターンを修正するもの、身体感覚や感情体験を重視するものなどさまざまである。その中でも精神分析的心理療法は、人間の「無意識」に焦点を当てる独特の視点を持っている。この考え方は、19世紀末にオーストリアの医師であるフロイトによって体系化された精神分析の理論に基づいている。精神分析は、人間の行動や感情の多くが本人の自覚していない無意識的な心の働きによって形づくられているという前提に立っている。



精神分析的心理療法の魅力は、心の奥にある意味を探究しようとする姿勢にある。私たちはしばしば「なぜ自分は同じような失敗を繰り返すのだろう」「なぜ特定の状況で強い不安を感じるのだろう」と感じることがある。精神分析的心理療法では、こうした疑問を単なる性格や偶然の問題として片づけるのではなく、過去の経験や無意識の感情、心の防衛などと関連づけながら丁寧に理解していく。症状や行動の背後には、必ず何らかの心理的な意味があると考えるのである。

この療法において重要なのが「語ること」である。クライアントは自由に思いつくことを話し、セラピストはその言葉の流れや感情の変化に注意深く耳を傾ける。ときには夢や空想、ふとした沈黙までもが重要な手がかりとなる。こうしたやり取りを通して、これまで無意識の中に隠れていた感情や葛藤が少しずつ言葉になり、理解されていく。その過程そのものが、心の変化を生み出す力を持つ。

さらに精神分析的心理療法では、セラピストとクライアントの関係そのものも重要な意味を持つ。人は他者との関係の中で心を形成してきたため、治療関係の中でも過去の対人関係のパターンが自然と現れることがある。たとえば、相手に拒絶されるのではないかと不安、過度に相手に合わせてしまう傾向、あるいは怒りや依存の感情などである。こうした感情が治療関係の中で安全に経験され、理解されていくことで、これまで固定されていた対人関係のパターンに新しい可能性が生まれてくる。

精神分析的心理療法のもう一つの特徴は、「すぐに答えを与えない」という点である。現代社会では、効率や即効性が重視されることが多い。しかし人間の心はそれほど単純ではない。深い変化には時間が必要であり、理解はゆっくりと熟していくものである。精神分析的心理療法は、この時間を大切にする。クライアントが自分自身の心の動きを発見し、納得できる形で理解していくことが重視されるのである。

このように考えると、心理療法は単に「問題を治す」ための方法ではなく、人間が自分自身をより深く知るための対話の場であると言える。精神分析的心理療法は、とりわけ人間の複雑さや曖昧さを尊重しながら、心の奥にある物語を丁寧に読み解こうとする。その過程はときに困難で時間のかかるものだが、だからこそ大きな意味を持つ。

人は誰も、自分自身の心について完全に理解しているわけではない。むしろ、知らない部分があるからこそ、人間の心は奥深く魅力的である。精神分析的心理療法は、その未知の領域に光を当て、言葉を与える試みである。自分の内面に耳を傾けることは、ときに勇気を必要とする。しかしその探究の過程で、人はこれまでとは異なる視点から自分自身や他者を理解できるようになる。

心理療法とは、心を修理する技術ではなく、人が自分の人生の物語を語り直すための対話の営みである。精神分析的心理療法は、その物語の奥にある無意識の声に耳を澄ませながら、人がより自由に生きていく可能性を広げていく。その静かで深い探究こそが、この療法の最大の魅力と言えるだろう。



「元気をもらおう」

須永静江

9月になると、つぶつぶの「いぼ」が現れて来る。「いよいよ、秋が来るのだ」と、納得し、「この冬をどう乗り切るか、準備をしなければ」と、思う。

春が終わり、雑多に物が置かれてある物置部屋の窓に移し、たまに、水をあげるだけだったクリスマス・カクタス。毎年花期が終わると、居間の窓辺の「センターステージ」から下され、物置部屋の窓辺に移される運命であった。それでいて、私が現在の退職者専用アパート(retirement flat)に移った 2018 年の暮れに買ったこの小さな鉢植えのカクタスは、今年 (2025 年)の春まで元気で老いた様子を見せなかった。

ところが、今年は9月になって、「そろそろ、いぼ(=小さな花のつぼみを、私は愛情を込めてそう呼ぶことにしている)が現れて良い頃だなー」と思い、物置部屋の窓辺に行きカクタスの鉢植えをつぶさに観察したのだが、イボはどこにも見えない。出てきそうな感じもない。あわてて、鉢を台所に移し、横倒しにして、根分けし、比較的元気そうな葉のついた茎を新しい土のポットに差し入れ、水をやった。

毎日観察を続けて 2 週間は経っただろうか？何と！新しい葉があらわれ、蕾が付くどころか、茎の根本は黒っぽく腐りかけている。「あらっ、どうしよう！私は、カクタスを死なせてしまった」と、思った。春から、ずっと暑い夏の間（今年は、イギリスは、史上最高の暑さだったらしい。）に、存在を無視され、健康状態を無視されていたのだ。半年以上もの間。

待っても待っても蕾は出てきそうもない。「このまま、今年の冬は、クリスマス・カクタス無しのクリスマスを過ごさなければならぬのか？」私は、寂しくなった。

そんな気持ちに耐えられなくなって、結局、新しい鉢植えの、若さにあふれた元気なカクタスを買うことに決め、いくつかの店に立ち寄ってみた。行き慣れた、B&Q, Sainsbury's, Tesco, Waitrose など。でも、どの店にもカクタスの姿は見えなかった。「まだ時期が早過ぎるのだろうか？」と、思った。



考えてみれば、私は、花を楽しむよりも、日々の観察を通して、命のつながりを感じながら、蕾から花が咲き、花が散る、その姿をそれとなく眺めるのが好きなようである。総じて、花の命は短い。切り花よりも、根の付いた植物の方が長い間観察ができ、面白さを感じさせてくれる。

それで、私は、クリスマス間近になって、立派な花をつけた鉢植えが出回るのを待って居られない気持ちになった。解決策は？ インターネット注文である。ネット販売には色々な色のカクタスの写真が載っていたが、私は、すぐに、これまでに持っていた物と同じ色の花に決めた。それは、一番ありふれたピンク色のカクタスである。私にはピンク色に見えるのだが、広告には 'purple' (=赤紫)と出ていた。

植物を買うのに、インターネットを使うのは、郵送の段階でダメージが出るのが心配であったが、まあ

まあ、状態で予定日より早く配達された。すぐに、多すぎると思った蕾は切り落とし、今年は比較的楽に過ごしてもらって、来年も頑張ってもらおうと思った。

古いカクタスも、まだ、観察の対象になっている。どうやら、水をあげても、吸い上げる力が無いようだ。私が、いくら食べても体重が増えないのは、やはり、加齢と共に体内の細胞が衰えて、健康に必要な栄養分を十分に吸収しない状態になっているためであろうか？、と、自分の最近の健康状態と、年を取って十分な世話を受けられなかったカクタスの命がパラレル(並行)になって見えて来るようであった。

私は、「元気をもらおう。」という言葉が好きである。

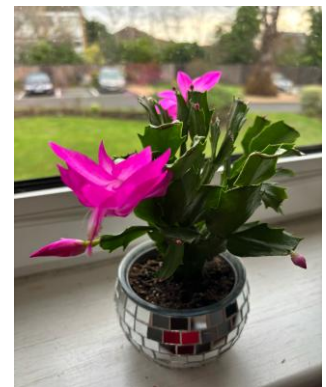
私たちは、日々の生活の中で 意識すると無く、何か（または、誰か）から、元気をもらって生きているのではないだろうか？

かつて私の友だちは、「嵐が来るのを知って、(南)ウエールズ の美しい海岸 Rhossili (ロッシリー) に行き、海岸に突き出たホテルに宿をとり、ホテルの窓に打ち当たる高波に脅威 (= awe) を覚えて、満足して帰路についた」と、言っていた。



そう言えば、私も、東京の学生時代 (1965 年)に、嵐の過ぎ去るのを待って、東京の西外(にしはず)れにある高尾山 (? 御岳山) の溪谷を登りながら、大きな岩に打ち当たりながらゴンゴンと落ちる大量の水の勢い、轟音を目と胸におさめて、満ちて東京の下宿に戻って来た思い出がある。

私は、最近、年を取ったせいか、自然の猛威から「元気をもらおう」、器(うつわ)が無い。代わりに、日々の身近な自然の移り変わりから、穏やかな「元気をもらって」、生活を楽しんでいるようである。



第二ラウンド ? (11 月 10 日 ~

ネットで取り寄せた小さな鉢植えのクリスマス・カクタスは、9 月末には、満開に花を咲かせて散ってしまった。「今年は、もう、終わり」と思いながらも、鉢は春になってから物置部屋に移そうと思い、居間の窓辺に置いたままであった。

11 月半ばになり、ふと気が付くと、緑色の肉厚のカクタスの葉の先に、再び、「小さな、ピンク色のイボ」が幾つも現れた。カクタスは、世話が要らない。正直、先代のカクタスも、肥料は一切あげることなく、たまたま、少しの水をあげるだけで 6 年間も生き続けたのである。

現在、11 月の末になり、時折、お店で、クリスマス・カクタスの鉢植えを見かけるようになったが、私が 9 月に買い迎えたカクタスは、私にお礼を言うように、クリスマスにかけて 2 度目の花を咲かせて私を楽しませてくれるようだ。

私は、再び、観察する機会を与えられ、毎朝、眺めることで、元気をもらっている。 、、、、



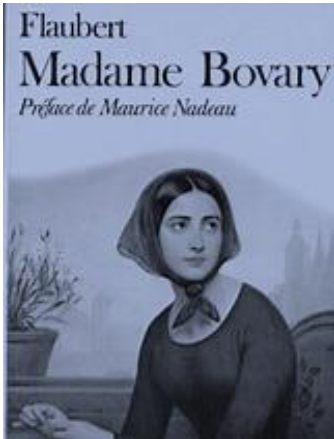
さらに、驚き！。12 月 21 日。Winter Solstice (冬至) の朝。もう、既に全滅と諦めていた 2018 年買いのクリスマス・カクタスの一つの葉から、小さな蕾が出ているのが見えた。「まあ、ちょっと凄い！」「ちょっと、ちょっと凄い！」と、私は驚き、大喜びであった。死にかけてのカクタス！。いじけた感じではあるが、「まだ、生きています。」と言っているのだ。

私の出来ることは観察と水やりだけであるが、何年も付き合ったカクタスである。なんとか、生き延びて欲しいと思う。

「ボヴァリー夫人は私だ」

原田孝雄

フランス小説の代表作と言われる『ボヴァリー夫人』だが、21世紀の昨今その人気は低調である。



19世紀小説は一般に叙述があまりにも詳細なため注釈がないと読めない人が多い。日本人作家でも夏目漱石などはルビや註が目障りなほどついている。外国作家の19世紀古典は長編が多く、ディケンズの長編原作は900ページ前後、ヴィクトル・ユーゴの『レ・ミゼラブル』のPenguin英語版は1,200ページの大長編である。『ボヴァリー夫人』は比較的短く、岩波文庫邦訳では2冊457ページ、旺文社文庫では455ページ1冊である。仏語原作はガリマール社ペーパー版で序文、風紀上の良否を問われた裁判記録等を除けば423ページなので厚みによる心理的圧迫感は少ない。しかし、フランスの高等学校の国語教科書として採用されているため義務感による人気離散はいがめない。今ではめったに使われない語彙、慣用句、意味が多用されており本国人にとっても辞書なしでは読了できないと思われる。

語り手、つまり作者がすべてを知り、それを小出しにしながら物語を展開する典型的な19世紀小説と『ボヴァリー夫人』は異なる。例えば出版年(1856年)がほぼ同一の『レ・ミゼラブル 1862年』第7冊3章冒頭で「読者はこの辺でマドレーヌ氏が主人公ジャン・ヴァルジャンであることをお気づきだと思います」等、直接作者が語りかける。『ボヴァリー夫人』では作者は登場人物の背景等の客観的な描写はするが、主に登場人物が語りかけ、その視点を読者が追いかける形になっている。シャルル・ボヴァリーが登場する第1部第1章は学校のクラスメートの視点、第1部第2から第3章はシャルルの視点、第1部第4章のエンマ・ルオーとシャルルの結婚式の客観描写の後、第1部第5章以後は主にエンマ・ボヴァリーの視点。途中薬屋オマー、法律事務所書記レオン、誘惑者ロドルフ・ブーランジュの視点も入ってくる。この登場人物の視点の導入は文学史では画期的な出来事で、20世紀の小説家たちが影響を受け、追随している。その結果として登場人物に対する読者の同情、驚き、批判をより誘うことが出来る。原文で読むと視点が明確になるため翻訳では気が付かない作者の意図や作中人物への思いやりが見て取れる。作品は3部からなるが、100ページ程度の第1部以外はエンマ・ボヴァリーの視点が支配的で作者の客観描写を交えながらエンマの目で見たとノルマンディ地方の中心都市ルーアン郊外の田舎町ヨンヴィルでの生活が語られる。

ボヴァリー夫人と呼ばれるのは1人ではない。主人公の夫であるシャルル・ボヴァリーの母親、亡くなった妻エロイズ、そして後妻であるエンマ・ボヴァリーの3人である。それぞれの人物の性格が見事に描写されている。シャルル・ボヴァリーの母はもともと快活な人物であったが、美男の夫との長い確執で「ちょうど気の抜けたブドウ酒が酔になるように」気難しい性格になっている。一人息子シャルルを溺愛し、その育て方は学校、開業、嫁探し等現代の教育ママそっくりである。シャルルの母が見つめてきた資産家の後家であるエロイズ・ボヴァリーは、夫の夜の往診には心配し、女性客には嫉妬する。彼女の資産を管理している公証人が夜逃げした後、その資産の実態がゼロであったことを姑たちから追及されショック死する。彼女の死後、シャルルは「とにかく、彼女は彼女なりに自分を愛してくれていた」ことを理解する。

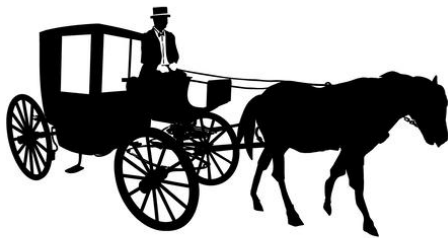
エンマの父親の簡単な骨折を治療して、親しくなった彼女に求婚し受け入れられるが、この部分は作者の客観的な目線で描写されている。それらは、エンマの修道院女学校を出たばかりの行き場のない退屈な農場での生活、なんとかそこから逃げ出したい思いや、シャルルのはっきりと自らの意志を表現できない、優柔不断な求婚が描かれる。シャルル・ボヴァリーの視点からすると自らの幸福は美人で聡明な「天使」のような妻を獲得したことである。彼の不幸は、他者や自分自身を客観的に判断できないことにある。例えば薬屋オマーは医師の免許なしで薬局の片隅で客を診断したりしているため、シャルルを敵にできないでいる。「衛生官」の資格しか持たないボヴァリーをドクターと呼んだりしておだてているが、シャルルはそれを真に受けている。そしてオマーやエンマにそそのかされ、医学雑誌掲載の新治

療方法で、ホテルの下男イポリットの「ワニ足」の手術を行い、大失敗する。

エンマ・ボヴァリーの不幸も夫同様、自らの能力を客観的に判断できないことにある。彼女の美貌、読書力、ピアノ演奏力は他の登場人物から高く評価されているにも拘わらず、作者の客観描写ではその限界が露呈される。読書内容はロマン主義のウォルター・スコットの小説以外は非常に感傷的な当時流行した小説が中心で、「女性は何をするにも妨げられている」<< Mais une femme est empêchée continuellement >> と男女不平等に不満をもらしながらも、1830年代に書かれたジョルジュ・サンドやバルザックの女性の教育や女性解放の小説は読んでいない。修道院で習ったピアノにいたってはルーアンでのレオンとの週に1度の情事の隠れ蓑として、ピアノ教習が使われるという始末である。

農業共進会ヨンヴィル大会でエンマを誘惑する隣村の大地主ロドルフは彼女の美貌をたたえ、夢見がちな情感に訴える。エンマは恋していた相手レオンがパリに去った後、絶望的な現実から逃れるため、ロドルフとの最初の不貞にのめり込む。しかし、ロドルフにとってエンマは何人目かの情婦でしかない。エンマは旅行トランクを用意して駆け落ちを促すが、ロドルフに拒否され、そのショックで病いに臥す。その駆け落ち騒ぎの描写では、ロドルフの視点からのエンマへの別離の手紙の執筆に対して、エンマの視点からの、ロドルフの裏切りに対する怒りがそれぞれに語られる。「彼女は憤怒にみちたものすごい笑いを浮かべながら手紙を読み返した。しかし注意を集中すればするほど頭のなかが混乱してきた」<<elle relisait la lettre avec des ricanements de colère. Mais plus elle y fixait d'attention, plus ses idées se confondaient.>> 作者はエンマの情動を非常に同情的にとらえている。そして病からの気晴らしとして薬屋オマーから勧められたルーアンでのオペラ観劇でレオンと再会する。作中のオペラは音楽史ではロマン主義オペラの傑作ドニゼッティの『ランメルモールのルチア』フランス語版で今でもフランス語で時々上演され、小説の第2部と第3部を分ける役割を果たしている。

ヨンヴィルでの唯一の話せる相手であった文学青年レオンはパリの法律事務所からルーアンに移り、司法試験準備中である。パリ滞在で世間ずれをしたレオンはオペラの再演を観るために一人残ったエンマに愛を告白する。翌日ルーアン大聖堂でレオンと待ち合わせ、外に出て馬車（タクシー）を拾い車中で密会を果たす。レオンの性格は第3部第1章(18ページ)でエンマへの愛の告白で長々と表現される。



カール・ユングは『人間と象徴』のなかで『ボヴァリー夫人』を例に出し、エンマはレオンが「アニマ」の投影による自ら作り上げた女性であると注釈している。ユングのアニマとは「全ての男性の無意識内にひそむ女性的心理傾向（感情、直観、創造性）が人格化されたもの」であるという。エンマはレオンにとって自らがそうでありたいと願う女性なのである。エンマはレ

オンの心には次のように映る「エンマはあらゆる小説に出てくる恋の女であり、あらゆる劇の女主人公であり、・・・エンマは天使であった」<<Elle était l'amoureuse de tous les romans, l'héroïne de tous les drames, ... mais elle était par-dessus tout Ange!>>。

エンマは洋服雑貨屋と金貸しを兼ねているルウルウ（フランス語で「幸福」の意味）にかなりの借金をしていた上に、若い恋人を抱えた彼女の負債はかさむ。返済の兆しが無いので、ルウルウはその負債の手形を譲渡し、ルーアンの執達吏はボヴァリーの家財を差押える。8千フラン返済のため最初の愛人ロドルフを訪ねるが、言下に断られる。今の恋人レオンは自らが作り上げた「天使のような」女性と違う、法律事務所よりの横領をほのめかすエンマが怖くなり、何もできない。逃げ道を閉ざされたエンマは親しくしている薬局の下男に屋根裏部屋を開けさせ、ヒ素を手づかみにして口にに入れる。

小説の最後の場面は最終シーンを観ずに劇場から出てきたオペラ『ランメルモールのルチア』の結末とよく似ている。エンマ自身オペラの女主人公が「自分の苦悩を再現した」<<cette reproduction des ses douleurs>>ように見えることは認めながら、最終幕の狂乱の場を直視できない。オペラの最終場面は狂乱したルチアの絶望死、に対するエドガルドの自殺で悲劇的に終わる。小説で自殺に近い形で死亡する

のは恋人レオンではなく、夫シャルルである。

この作品は19世紀のリアリズム小説の傑作と評価されているが、それは当時の美術作品同様、完全に虚構の世界であるにも拘わらず、地理的背景やわき役の登場人物が綿密に描かれており、主要な登場人物の行動に現実味を加味する役割を果たしている。作者フローベールは「エンマ・ボヴァリーは私だ」と語っているが、ユング流に言い換えればエンマ・ボヴァリーはフローベール自身のアニマの投影なのかもしれない。他の登場人物と比べ、エンマの情緒の叙述は好意的に始終しているからである。この後幾つかの作品を世に送った作者は、『ボヴァリー夫人』の名声によって自らの生涯の文学的な業績が歪められることを厭い、「私に十分な金があれば巷に出回っている『ボヴァリー夫人』を全て買い取り、焼き捨てしまいたい」と書いているから、作者のこの作品への思い入れは大変複雑なものであったようである。



春秋あれこれ

『ボヴァリー夫人』を読み終わった。まったくがっかりだった。『アンナ・カレニナ』を薄めた感じだが、比べることすらできない。モーパッサンはフローベールの弟子とされているが、弟子の方が1000億倍は優れている。本物の作家だ。……アレクセイ・ナワリヌイ「パトリオット」より

すごく好きなフローベールからの啓示もありました。……彼は友人から「……バルザックのような風俗小説を書け」と言われ、その言葉に奮起して書いたのが、写実主義を確立して、文学史上に燦然と輝く『ボヴァリー夫人』なんです。この経緯を大学生の時に読んで、いま自分に必要なのはこれだ！って……小説家になるなら、『ボヴァリー夫人』を書かなければならない。……

鈴木結生 「文芸春秋」2025年度芥川賞受賞者インタビューより

「一つの挑戦、真の挑戦、一つの賭」

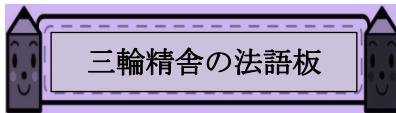
ボードレール

『ボヴァリー夫人』は敗北であり勝利である。

ジャン・ポール サルトル「家の馬鹿息子」

「後年になってフローベールはこの傑作小説があまりに有名であることをいやがるようになるが、それというのも、この作品のために「一冊だけの作家」と見なす人の多かったためである。デュカンに語ったところでは、もし株で一発当てて大儲けでもしたら、発行された『ボヴァリー夫人』を全冊、何がなんでも買い占めてしまいたいとさえる。」

ジュリアン・バーンズ「Flaubert's Parrot」



見えなくなったのは 死ではなく 私たちの目

石井建心

お釈迦さまのご生涯における「四門出遊」のお話は、私たちの生き方を根本から問いかける出来事です。そしてそれは、現代社会と大いに重なっています。

お釈迦さまは、釋迦族の王子として、若人の奏でる音楽や舞に囲まれ、食事を楽しみ、何不自由のない生活を送っておられました。しかし二十九歳のとき、城の東西南北の門から初めて外に出られ、老人、病人、死人、そして修行者のお姿をご覧になります。それまで目にすることのなかった、人間の避けることのできない老病死の現実に触れ、それらの苦を越えようとして修行に励む人を目の当たりされたのです。この生老病死の現実との出遇いが、お釈迦さまに人生を問わせ、出家へ、そして覚りへと向かわせる決定的なご縁となりました。これを四門出遊と申します。

三輪精舎の母体である正行寺の住職は、この四門出遊における、食事や音楽を楽しむ城の外に出たことのなかった王子の姿が、現代社会と非常によく似ていると語っておられます。

現代では、病人は病院へと移され、老人はケアホームで日々を過ごし、死は葬儀場や火葬場という日常から離れた場所で迎えられることが多くなりました。家族葬が一般化し、死に立ち会うのはごく限られた身内だけとなっています。私たちは、老い、病、死という避けることのできない現実を、生活の外側へと押し出しながら暮らしているのではないのでしょうか。

かつては、家で葬儀が営まれ、近隣の子どもたちも自然に死の現実に触れて育ちました。しかし今では、死者は家に戻ることもなく葬儀場へと運ばれ、多くの人が他者の死に触れることなく一生を終えていきます。

正行寺の住職は、この社会のあり方を深く憂いておられました。なぜなら、生老病死の現実に出遇うことこそが、真実に目覚める大切な因縁であり、自らの人生を直視し問い直す扉となるからです。

お釈迦さまは、老いや病、死を単なる不幸な出来事として見られたものではありません。それらを通して、「この身はいかに生きるべきか」という問いをご自身の問題として引き受けられたのです。

私たちは、苦しみのない人生を理想としがちです。そのために、老いや病、死から目を背けようとしします。しかし佛教は、苦しみを通してこそ開かれる目覚めがあることを示しています。

便利で安全な社会は、多くの不安から私たちを守ってくれます。けれども同時に、「本当は何のために生きているのか」という問いを遠ざけてはいないのでしょうか。

四門出遊は、遠い過去の物語ではありません。今を生きる私たち一人ひとりが、老いや病、死を前にしたとき、それを他人事として退けるのか、それとも自らの人生の問いとして受け止めるのか。その分かれ道を示しています。

この身に起こる現実を目を塞ぐのではなく、避け難い苦しみを抱えたまま生きる自らの現実に向き合うところにこそ、静かな安らぎの世界が開かれていくことを佛教は教えてくださっています。

お釈迦さまの四門出遊は、現代社会を生きる私たちに、今なお静かに問いかけています。

私たちは一体いつ「我が城」から出て、自身の人生を見つめるのでしょうか。



黒 髪

小川のり子

本箱を整理していてふと手に触れたのが、芥川龍之介の「羅生門」。
懐かしさも手伝って数行だけのつもりで始めたのが、気付くとすべてを読み終えていた。女の死体から髪を盗むという老婆の特異な行為を、当時中学生であった私がどう感じたか覚えていない。しかし、今回、作者の端正な文体で語られて行く、怪奇な話に、驚かされ、感心もさせられた。

この短編は国語教材として広く採用されていると聞くと、アニメや漫画が喜ばれ、新語の氾濫する現在、“平成っ子たち”がどれほど気を入れて取り組むのかと、ふと疑問に思った。

少々飛躍するが、他の小説で女性の髪の毛に言及されているので、まず思い付くのが、「源氏物語」の六条の御息所の黒髪。それが「黒漆の滝のように背中一面に流れた」のくだりかと思われる。「焰」というタイトルで上村松園が、長い黒髪を垂らし、あらぬ目つきの御息所を一幅の画にしているので、この箇所を読むたびに、嫉妬に狂った彼女の映像もまた一緒に浮かび上がって来る。

古来より「髪は女の命」と言われて、万葉集や伊勢物語、源氏物語などで、女性の美しい黒髪について描かれているのが随所に見られる。また、ぬがたまの黒髪、カラスの濡れ羽色の黒髪、みどりの黒髪など、髪形容は、歌集や物語に見られる、字面以上の思い入れを作者は織り込めて描写しており、読者もその意図するところを感じ取ることが出来るようである。

『羅生門』 芥川龍之介

「或日の暮方の事である。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。」で物語は始まる。



京都は朱雀大路にある羅生門はこの2～3年、地震、火事、飢饉などが続き、荒れ果ててしまっている。そして狐や狸が棲み、盗人が棲み、死人の捨て場ともなっている。職を失い行く当てもない下人は、一夜の宿にと門のそばにある梯子を伝い、楼上の屋根裏部屋のような場所に辿り着く。そこには噂通りに幾つかの死骸が捨ててあったが、その間にうずくまっている生きた人間を見つけて、ギクッとする。

「肌色の着物を着た、背の低い、痩せた、白髪頭の、猿のような老婆である。その老婆は、右の手に火を灯した松の木片をもって、その死骸の一つの顔を覗き込むように眺めていた。髪の毛の長い所を見ると、多分女の死骸であろう。……すると、老婆は、松の木片を、床板の間に挿して、それから、今まで眺めていた死骸の首に両手をかけると、丁度、猿の親が猿の子の虱をとるように、その長い髪の毛を一本ずつ抜きはじめた。髪は手に従って抜けるらしい。その髪の毛が一本ずつ抜けるに従って下人の心からは、恐怖が少しづつ消え去って行った。」

雨の夜、荒れ果てた、羅生門の楼上で、腐乱した死体の、臭気につつまれながら、白髪頭の老婆が、死人の髪の毛を抜いているというシーンは、想像するだけでおどろおどろしい雰囲気漂う。そして、そこまで落ちぶれても、なお生きて行かなければならない人間の性を思うと、何ともおぞましい気もしてくる。「何をしているか？」と聞かれ、老婆が毛を抜く手を休め、この死人とは面識があり、かつて人を騙して商売をしていた女だからこうされるのは当然の報いだ、自分の行為を正当化させんばかりに応えた。老婆は老婆なりに、自分の論理を作り上げ、何とか生きて行こうと必死であるが、下人はこの“死体から髪を盗む”という行為をひどく蔑み、そして憎みもする。が、それにもかかわらず、当然の権利とばかりに彼女の肌色の着物をはぎ取って逃げて行く。この非道と思える行為そのものが、つい先ほどまで羅生門のそばで、自身の将来を思いあぐねていた彼に生きる目的を与え、これから京都の町へ強盗を働きに行く決心をさせたようであった。

『源氏物語』紫式部 円地文子訳

六条の御息所の、黒漆の滝のような黒髪、が描かれているのは第一巻目の「夕顔」の巻。
源氏の君が、最初の中々打ち解けようとされなかった御息所のもとに通いつめ、口説き落として、やっと思い通りになさったが、その後は、打って変わってあまり熱心ではなくなってしまった。女君は重々しい気品に満ちたお方で、すべて物事を真剣に考え込まれるご気性であったので、年齢の違いや、世間体、浮気心の多い君のことをあれこれ思われると、心が乱れ、眠れぬ夜をお過ごしになることも珍しくないご様子であった。君は御息所を、「あまりにもお嗜み深く、息苦しくなるようなお心癖・・・」だと思いつくほど足が遠のいていたが、久しぶりに会いに出かけられた。一夜をともに過され、霧の濃く立ち込めた翌朝、君をお送りすべく、女君は静かに身を起こされた。

枕元の御髪箱にうずたかくたなわっていた黒髪が、女君の起き直ってゆかれるのにて
音もなくゆるゆると背を伝い上ってゆき、やがて黒漆の滝のように背中一面に流れた。

と、この作者は御息所の黒髪については豊かな想像力を駆使して、読者を感じさせただけではなく、ある一人の画家にも深い印象を与え、後に「焰」という画を描かせた。しかし、女君との別れの際の様子については全く言葉を閉ざし、二人の言動については一言もふれていない。後朝の文すら届けられた様子もない。が、それは変事が起こる前奏曲であったかと後で気付く、なるほど、巧妙な筋立てだと感心する。御息所との別れの後の、源氏の君の立ち居振る舞いについては、次の通り書き添えている。

その朝、源氏の君をお送りしたのは、御息所のお世話をしている中將の君というお方であった。男君はいつもの浮気心を起こし、「移り気は褒められるものではないが、今朝の貴女はほっておけないほど美しいことですね」なんてぬけぬけとおっしゃりながら、彼女の手をそっと握ってしまわれる有様。しかし彼女はもの慣れた様子で、「早朝、早々とお帰りになるのは、もう心はここにおありでは無いのでしょうか」とお言葉を旨くかわしてしまわれた。

浮気心の多い源氏の君とは言え、心優しく、親切で、何くれと細やかにお世話されるはずなのに、今朝のこのような無言で心ないお仕打ちには、一体どうしてしまわれたことでしょうか。御息所のお嘆きをあれこれ付度すれば・・・、など読者として心配していたら、やはり大変な事が起こってしまった。君がご自分でまかれた種とは故、そのお連れの方のご災難を思えば、何ともお気の毒な限りである。



いきさつを手短かに書くと、御息所と一夜を共に過ごした後、源氏の君は夕顔と呼ばれる女性を伴って人里離れた山奥に恋の逃避行をしてしまう。その夜、彼の夢枕に美しい女性が現れ、「私を放っておいてこのような女と一緒にとは・・・」と恨めしそうにつぶやいたので、驚いて目をさましてしまう。そばにいた夕顔は物の怪に襲われたように、わなわなと怯えて正体もない様子。暗闇なので、「誰か灯を」と叫ばれるが応答ないので、源氏の君は自分で渡殿に灯をとりに行く。しかし灯をもって寝所に戻ってみると、夕顔は怨霊に憑りつかれ、恐怖の果て、既に息は絶えてしまっていた。さてはやっぱり、御息所の生霊がと源氏の君の彼女に対するこころない仕打ちに思いを馳せてしまうのであった。

この画は、御息所が自分の黒髪の一握りを口にくわえ、何かにとりつかれたようなあらぬ目つきで振り向く見返りの図。物語を思い起こしつつ眺めると、嫉妬の冷たい焰に身を焦がされ、背を少し屈め気味の姿が何とも哀れ。蜘蛛の糸としだれ藤が描かれた打掛に、眉が剃られ、紅のさされた口元から“おはぐろ”がのぞき、白蠟のようなしなやかな指先が、口にくわえた髪のはしをしかと掴んでいる。そして、何よりもこの画に凄みを与えているのは、一本一本と丹念に描かれた、裾まで届くばかりの見事な黒髪。まさに、“黒うるしの滝”とは言い得て妙である。

「焰」上村松園 国立博物館所蔵

古典籍スクール19

ブランド啓子

黄表紙の世界

(1) 山東京伝

前回に引き続き黄表紙の世界を見てゆきましょう。出版界の風雲児、版元蔦屋重三郎の耕書堂に集う作者の一人、山東京伝がなぜ花形作家になったかというのは、そのアイデアの煌めきにあります。蔦重と同様、吉原界隈で成長し、絵師北尾政演の顔をも持ち、絵も文も書ける作者として能力を発揮しました。18歳の時に発表した「**ご存知商売物**」は読者に「**ご存知**」の知識を要求します。つまり典型的役割(hero, villain, 美人, 道化など)を把握せねばなりません。この役割と実物(あるべき姿と現実の姿)とのズレが京伝の笑いの特徴です。

2) 箱入娘面屋人魚(はこいりむすめめんやにんぎょ)

物語は、江戸の繁華街；中洲新地がなぜか水没して龍宮に乗っ取られます。ここでは浦島太郎が美人の乙姫と結婚していますが「美人は3日で飽きる」とこっそり鯉の遊女と恋愛して子供も生まれます。浦島は、この子(顔は人間体は鯉)を育てて両国などで見せ物にすれば儲かるのに、と考えますが龍王には秘密なのでやむなく海に捨てます。捨てられた人魚は成長し漁師平次の網にかかります。

貧乏な平次は人魚に何を食べさせたら良いのか悩み、金魚の餌 赤ボウフラを与えようとしませんが、食通の人魚は「落雁かおこしが好み(共にお菓子)」とボウフラを拒否。しかし人魚は経済的に平次を助けようと、遊女になる決意をします。女郎屋の主人伝三の助けで契約を結び、花魁になる準備をします。伝三は人魚を「魚人(うおんど)」と名づけ着飾らせ、足は股引きで誤魔化すこととしました。

さて、花魁道中もすみ、初めての客を取りますが客は「生臭い」とほうほうの体で逃げてしまいます。伝三は魚人をやむなく平次に返します。持て余す平次にアドバイスをしたのが、近所の学者。彼によると、「人魚を舐めると寿命が延びる」とのこと。さっそく平次は「人魚御なめ処」を開設。太鼓を叩いて、「拍子に合わせてお舐めなさい」ひとなめ1両1分(約10万円)と高額ですが、押すな押すなの大盛況。平次は自分の妻なので役得とばかりに、いつも舐めてますとどんどん若返り7歳くらいになってしまいました。そこで夫婦が思案にくと、浦島太郎と鯉が玉手箱を持って現れます。玉手箱の煙によって、平次は適当な年齢になり、魚人の殻も割れ、珍しい人魚の抜け殻は高値で売れました。

(3) 挿絵の面白さ



箱入娘面屋人魚は寛政5年に耕書堂から出版されました。挿絵は歌川豊国です。ほんわかした優しい世界が広がります。この頃出版会にはお上の統制の嵐が吹き荒れ、武家出身の恋川春町や朋誠堂喜三二などはお咎めを受けていました。蔦重と京伝も同様にお咎めを受けましたが、町人であったため、その後の風当たりは弱かったとも言えましょう。ほとぼりの冷めたのを見計らって、蔦重が京伝の黄表紙を紹介する形で、この本1ページ目の蔦重の口上があるのです。「最近はやる気を無くしていた京伝に(寛政の改革における出版統制により手鎖50日の処分を受けた為)どうにか頼み込んで新作を書いてもらいました。」もちろんこれも京伝自身が書いているのですが、手鎖50日の後に取り組んだのがこの作品です。**ご存知**浦島太郎の説話をベースに人間と魚(鯉)の混血の人魚が、いわゆるハンディキャップを乗り越えて、最後には幸せになるというお話です。筋立てが奇抜すぎて、息を飲むような所もありますが、根底を流れるのは江戸人の優しさで

す。魚人（うおんど）は顔は美しく、しかしアザラシのような姿なので不器用ないじらしい印象を与えます。最後には、ご存知の玉手箱のおかげで全てが解決、千両箱の山を前に、めでたし、めでたし。

戸口表には、寿命薬「人魚御なめどころ」の看板。左下の会話には、
「いっそ、もっと下の方がなめたい」
平次は太鼓を叩きながら「拍子に合わせておなめなさーい」（拍子にかかって）
魚人（うおんど）は恥ずかしいので頭巾をかぶっています。



古典籍スクール 20

歌舞伎の女形

（1）手弱女（たおやめ）ぶり 益荒男（ますらお）ぶり

今回は江戸でも大人気の黄表紙作家山東京伝の「箱入り娘面屋人魚」、その挿絵の面白さや筋だての奇抜さそして「ご存じ」という言葉で簡単に内容を共有できるイージーさに注目しました。

今回は日本文化における「男らしさ」「女らしさ」つまり歌舞伎の女形について。日本文化のなかでは性に優劣をつける訳ではなく、らしさの追求。本居宣長・賀茂真淵などの江戸期の国学者は、文学の面でも歌の詠み方を手弱女ぶり、益荒男ぶり、などと呼び、中国文化に影響されない大和心で源氏物語・古事記・万葉集の研究に打ち込みました。宣長の35年間にわたる研究成果は44巻の古事記伝となりました。手弱女ぶりとは女々しさではなく、繊細な美しさ、益荒男ぶりは荒々しい勇猛さのことなのです。



澤村田之助

（2）女形（おんながた・おやま）

歌舞伎の創始者とされる出雲阿国（いずものおくに(1572-1613)は、当時流行した子供たちによる「ややこ踊り」の踊り手でしたが、奇抜な格好で奔放に振る舞う京都の「傾き者」（かぶきもの）を模して男装で茶屋の女性と戯れる様子などを舞台上で演じ、「かぶき踊り」と呼ばれて大人気。全国に同様の女性芸能集団が出現します。これと同時期に誕生したのが「女歌舞伎」（遊女）と「若衆歌舞伎」（男色の色子）でそれぞれを華やかな群衆踊りの中で披露宣伝し、顧客を呼び込む目的でした。江戸幕府は風紀の乱れを理由にこれらを禁止（1629）翌年には女性が舞台に出るのも禁じました。そのため、舞台での女

性役を男性役者が演ずることになりました。



この時代にまさに「国宝」級の女形の名優が現れました。初代吉澤あやめ(1673-1729) 芸談「あやめぐさ」を表して、女形の日常は女性としての感覚を研ぎ澄まさせていなければならない、日常生活をも女として振る舞うべきとの女形の心得を説きました。衣装を変えて、異性(役割)への転換を演じることは古くから行われていましたが、(現代でも少女歌劇団など)そこに繰り広げられるのは単なる異性の演技ではなく、それを遥かに超越した高みと申せましょう。

吉澤あやめ
紀伊国名所図会 後編5巻
国立国会図書館デジタルコレクション

(3) 近現代の名女形 映画「国宝」に寄せて

近年、歌舞伎の女形を主人公にした「国宝」という映画が成功を収めているようですが、歌舞伎ファンから見ると別世界感があります。

個人的に心に残る女形の歌舞伎役者は、まず第一に六世中村歌右衛門(1917-2001)鬼気迫る、あやしいオーラを身にまとい舞台の時間をも止めてしまうほどのねっとりした迫力と存在感。大向こうからの「成駒屋!」の掛け声も多く、歌右衛門亡き後の喪失感は大い。

どこまでもたおやかに美しく光を放つのは、五世坂東玉三郎。人間を遥かに突き抜けて、精霊でもあるかのよう。

幕末から明治期の名女形として、忘れてはならないのが三世澤村田之助(1845-1878)でしょう。田之助は、『月缺血恋路宵闇』(つきのかけざらこいじのよいやみ)の公演中宙吊りから舞台に落下、その時の傷が元で脱疽を起こし、右足を大腿部から切断。その手術の執刀医は当時横浜で西洋医療の開業医だったジェイムス・ヘボン博士。ヘボン式ローマ字の生みの親です。田之助はアメリカ製の義足をつけて舞台に立ちましたが、脱疽の再発で左足も失いました。更に両腕を肘から切断。最後まで舞台に立ちましたが、33歳でこの世を去りました。

これら三名の名女形の影が、映画「国宝」の中に見え隠れしているというのが、私の感じたことです。

ブランド啓子 : 古典籍研究家

本文は JCZ 会報エーデルワイスよりの転載、筆者にて許可取得済み



英国春秋俳壇

エリオットつや子

冬 至

紅葉燃ゆある庭園の雨宿り

秋の川どうどう流る橋の下

秋思佳人の辞世の句とはなり

命糸解かれてかえる冬の星

冬至日はゆるく登りて落ちていく

街角のキャロルの声の美しく

ひき続き猫と寝起きのお正月

霜溶けて大空高く限りなし

野ぎつねは軽々高塀越していく

一輪の椿手折りて胸いだく

ロンドン自然史博物館

Natural History Museum, London

進化園

Evolution Garden

須永静江

2. Cambrian カンブリア紀：5億3900万年前～4億8500万年前

Cambria（カンブリア）と言う語は、ウェールズ語でウェールズを意味する Cymru（「カムリ」と発音される）から来ている。湖水地方を呼ぶ Cumbria（カンブリア）とは違うので気を付けたい。

博物館進化園の庭の入り口から前に進んで、Precambrian の岩石の次に現れるのは Cambrian の岩石である。

まず、Scotland の北海岸 Eriboll から運んで来た quartzite（クォーツアイト・石英岩/珪岩）がある。堆積岩の sandstone が熱と圧力で変成岩になった物で、体積全体の 80%以上が鉱物（ミネラル）の quartz（クォーツ=石英）である。石英岩は非常に硬く、丘や山のでっぺんに位置し、下層の岩を風化・侵食から守っている。土が出来にくいので、植物は生えず、白灰色の禿げ山の状態を長く維持している。



スコットランドの石英岩と
ウェールズのヘザー・スレート

Torridonian（カンブリア紀以前）の赤茶色の砂岩の上に、白灰色に大きくかぶさっている岩もクォーツアイトで、5億2千万年も古い物である。Scotland の北西 Highlands は、カンブリア紀には、北アメリカの基となるローレンシア大陸プレートの南東端の浅瀬に位置した海中にあった。Eriboll のクォーツアイトは、この位置で、この期に、川によって運ばれてくる侵食した山の土砂や、波に乗って運ばれて来る砂などが堆積して出来た sandstone（砂岩）である。（この砂岩が、後の時代に、造山活動などの影響で変成岩になり、地上に押し上げられた。）クォーツアイトは、硬くて美しいので、台所のテーブルトップや浴室の化粧台などに使われている。

次に、白いクォーツアイトの上に厚く乗っている、黒灰色で少し赤紫色を帯びた岩石の層は、北ウェールズから運で来た slate（スレート・粘板岩）である。海中深く堆積した粘土（clay）が固まり、熱と圧力で変成岩になった物で、5億年以上古い物である。赤紫色を帯びているので、Heather slate（ヘザーは、荒野に生え、赤紫の小さな花を咲かせる植物）と呼ばれ、薄く、平（たいら）に割れる性質があるので屋根瓦として使われたり、砦やお城の構築に使われたり、billiards（ビリヤード）や snooker（スヌーカー）用のテーブルなどに使われている。カンブリア紀の Wales は、Avalonia（アバロニア）孤島の一部になって、遠く、南極圏一帯に形成されていた超大陸ゴンドワナから引き裂かれ、北に向かって移動を始めた頃である。最初、島の浅瀬に堆積されていた clay（粘土）は、温暖化で海面が上昇すると共に海中深くまで堆積し、固まって堆積岩となった。その後、Avalonia は、Iapetus Ocean（イアペタス海洋）が1億8千万年掛かって消滅する過程で、多くの火山活動に巻き込まれている。Penryn（ペンリン）のスレートは、カレドニア造山活動の影響で高温・高圧を受けて粘板岩に変成された。

上記、二種類の岩石が出来たカンブリア紀の地球上の位置関係を見ると、「スコットランド」と「イングランド+ウェールズ」は、別々の大陸プレートに乗っていた。「スコットランド」は、当時、赤道を跨いで南回帰線辺りにまで位置していたローレンシア大陸の南東端に在り、「イングランド+ウェールズ」は、南極一帯に広がって形成されていた超大陸ゴンドワナから分裂した孤島アバロニアの一部を成しており、南緯 60 度と言う南極に近い高緯度にあった。

「進化園」の入り口から両脇の岩石層を見ながら少し前に進むと、右側に階段が現れる。この階段に沿って右側に高く積み重ねられた岩石層には、カナダのロッキー山脈の Burgess Shale（バージェス・シェイル=泥板岩）に見つかっている、カンブリア紀中期（今から、5億2千万年～5億1千2百万年前頃）の海の生物の模型が貼り付けられてある。これらの原始的な海の生物は、当時、赤道を跨いだ位置にあったローレンシア大陸プレートの北西の深海に生息していた。生息地が断層崖の海底であったため、数百万年の間、たび重なる土砂崩れにより、粘土・石英などの堆積に埋まって化石となった。この地層は、7千万年前（白亜紀後期）頃に起こったララミード（Laramie）造山活動の折、初め、水平に押されてローレンシア大陸にぶつかり、次に、縦に強く押し上げられて Rocky Mountains となった。Burgess Shale に、原始的な小生物の化石がよく保存されている理由は、ララミード造山活動の滑り込みが浅かったため、マグマの高熱の影響を受けて変成岩になることなく、堆積岩として残ったためであると考えられる。



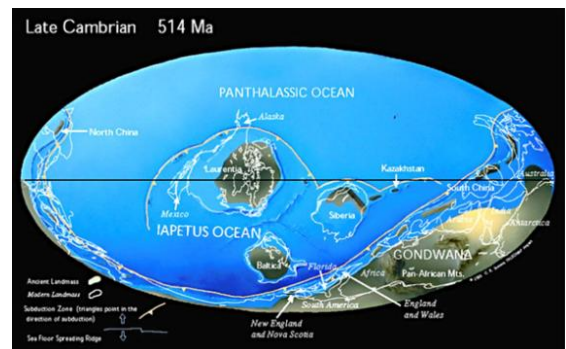
カンブリア紀の生物（Burgess Shale の化石より）

カンブリア紀の生物（Burgess Shale の化石より）

カナダのロッキー山脈の Burgess Shale は、Unesco 自然文化遺産として早くから認められ、世界中から観光客が訪れている。

カンブリア紀を勉強して、気が付いたこと。

□□大陸プレートはそのままの形で東西南北に移動するのではなく、絶えず形を変えながら、時計回りに、または、時計回りと逆方向に回転しながら地球の表面を漂流していると言う、まさに、Wegener の `Continental drift = 大陸漂流` 説を実感した。（現在の北アメリカ大陸は、その基となるローレンシア大陸のカンブリア紀の位置から、約 90 度、時計と逆の方向に回転した形のようにある。添付、地球儀参照。）



赤道をまたぐ、カンブリア紀後期のローレンシア(北アメリカ)大陸プレート
時計と逆回りに 90 度回転すると、現在の形に近くなる

□□海面の上昇・下降により、海と陸との量が変化する。海面は、気温の上昇で、地表の水が溶けると上昇し、気温の降下で地表の水が氷になると下降する。カンブリア紀には、南極にも北極にも氷の山は無く、地球全体が温暖な気候であったため、海面が上がり、海の生物の棲息領域が広がった。これにより、カンブリア紀以前から海に発達して光合成 (photosynthesis) を起こし、酸素を作り出していたサイアノバクテリア (Cyanobacteria 藍藻) がさらに繁殖すると共に、新たに、スポンジなどの海綿動物が現れ、海中の酸素を急速に増していった。

□□カンブリア紀には、地表を取り巻く大気中には、まだ、酸素が十分に存在せず、陸上には、生物（植物・動物）が一切、存在していなかった。`Cambrian Explosion = カンブリア紀の爆発` という言葉は、カンブリア紀に爆発的に生物が発生したことを意味するけれど、それは、あくまでも、海中での出来事である。



イギリスに感謝

渡辺総一郎

私がイギリス女性 Ann とデンマークのコペンハーゲンで結婚したのは1970年9月でした。その後イギリスに入国2年間程オックスフォードのホテルで働きながら英語学校に通いました。札幌に帰り小さな英会話学校を開く予定でしたが、事情が変わりイギリスに留まることになりました。

私は札幌の高校を卒業して一年後に横浜から日本を出ましたので、学歴も無く又特別な技術も持っていませんでした。私達にはすでに幼い娘があり、家族3人をホテル等の低給料で生活できるかと悩んでいました。

当時、イギリスは技術者不足で、新しい政府の政策として技術者養成に力を入れるスローガンの下で、志望者を求めているという事を耳に入れました。私はさっそく志願者申請書を出しました。試験合格後、Slough市の工業専門学校へ通うことになりました。私のコースは電機、電子学で普通3年間のコースですが、1年間でやるというとてもきついコースでした。毎週月曜日から金曜日、一日8時間、金曜日には週末テストがあり、3回合格しなければ退学。クラスは初めは12人でしたが、最終的には残ったのは私を入れて8人。一年後、国家試験を受けて、合格した後イギリスの一流の電機販売会社に、晴れてエンジニアとして働くことになったのです。

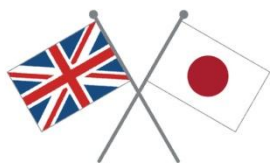


私が外国人（日本人）であるにもかかわらず、工業学校の授業料、国家試験料金そして、そして私達家族の一年間の生活費、交通費を全てイギリス政府が支払ってくれたのです。

私が初めてイギリスで家を買うことが出来たのは、私が28歳の時でした。3年間程、オックスフォード州営住宅に住んでいました。自分の家を持つということは、国民の権利であるとの政府の新しい政策の下にて、市営、州住宅に住んでいる人々に対して、相場以下の格安で買う権利が与えられました。その結果私達は初めて家を買うことが出来ました。もちろん住宅ローンですが、28歳で自分の家を持つとは夢にも思っていませんでした。

2022年の7月にオックスフォード大学病院から通知があり、私の便の中に少々血液が混っているので検査が必要とのこと。私は今まで医者には世話になったり、病院に入院することはありませんでした。検査の結果、大腸ガンと診断されました。1ヶ月後、手術を受けました。ガンに犯された部分30センチ程切り除いたとのこと。手術後の治療は必要なしのことでした。その後6ヶ月ごとに検査がありましたが、昨年（2025年）8月にガンの心配はなしとのことで、晴れて病院の患者簿から除かれました。

皆様も御存知のことと存じますが、イギリスは2年毎に便の検査がありますが、別に強制的なのではありませんが、やりたくないと言う方々もおありのことと思いますが、必ずやっていただきたいと願います。私は昨年78歳になりましたが、こうして元気なのは、便検査の早期発見のおかげです。



現在妻と2人停年生活をしていますが、毎年何回も、海外、国内旅行をし、キプロス島にアパートを買うことが出来たのは全て、イギリスの人々のおかげです。

私はべつに特別なことはしていませんが、50年以上当国に住み、イギリスの会社で働き、数多くのイギリス人と友情を持ったことによって少しでも日英の友好のためになったと信じています。

恐怖でブルブルとなった話

内田みつえ

さて、読者の皆さまは今までスリ、空き巣、窃盗等に遭遇したことはありますか？私は、これまでの人生(成人後の約 55 年間)で 3 回あります。まずは今でも足がブルブルと震えてしまう感覚を思い出す、リスボンの地下鉄での出来事です。

20 代の後半、主人と一緒にリスボンに Long Week-end で遊びに行った時のこと。当時ロンドンで居ながらにして欧州の美味しいものがいただけるというのはもっと後の話で、若かった二人は City Break にはまり週末を利用して近距離のヨーロッパの街に行っては美食し、歴史散策、博物・美術館を訪れその街の文化に触れ精力的に楽しんでいた。



当時首都リスボンには貧困の匂いが街のいたるところに漂い、今



思い出してもゾッとするのが路上に物乞いの多いこと。その中でも目を背けてしまったのがエレファントマンそっくりな物乞いを見た時、私は憐れというよりも恐怖心から思わず顔を背け、主人に頼んで彼の募金の器にお金を入れてもらった。余りにも人間から程遠い様相に同情よりも怖いものを見たという気持ちが入り混じり、挙句の果てには、ポルトガル政府に憤りを覚えたものだ。それ以来どうもリスボンの街には苦手意識がある。

そしてその日は、世界遺産の修道院やお城を見学しそろそろホテルに戻って空港へ行くこととなり、そこで主人の提案で地下鉄に乗ってみることにした。電車をホームで待つこと数分、ロンドンの地下鉄(70-80 年台の地下鉄は喫煙の為にタバコの吸い殻、窓、椅子の汚れはひどい状態)に比べて綺麗な車内だった。そして乗ってから 3 つ目当たりの駅でクッションを半分に折ったサッカーファンが沢山乗車してきた。きっとサッカーの試合が終わりどこかのスタジアム前の駅だったようだ。そのクッションを二つ折りにした男性の集団に波が寄せたり引いたりする感じで私と主人は車内で渦に巻かれるように押され離れ離れになってしまった。



その時に何となくハンドバッグが後ろから引かれているような気がして、手元に戻した時はすでに遅く、バックは開けられて中身の半分がない！！直ぐ主人に「Pick pocket！！」と叫んだがタイミング悪く、電車は駅に着きドアが開き、乗客、特に二つ折りにしたクッションを抱えた男たちがつぎつぎと降りていくではないか。そこで私はこれで降りられたらもう私の財布、パスポートは返ってこないと判断し、きっとクッションの中に隠されていると見当をつけて、手当たり次第に降りようとしているその男たちのクッションを開けて中を勝手に見せてもらったが、皆「No, No——」と自分ではないと言っていた。そこでドアの横に立っていた女性が私に何か目配せしたように思い、そこから出た男の後ろをつけると隣の車両に乗ろうとしていたのだ。これは怪しいと判断し、素早く私の倍はある黒い革ジャンパーを着た背丈の大きな男の後を追った。彼がドアの敷居をまたいだ瞬間に後ろからそのジャンパーを引っ張り「Please give my purse back!」と言い入口の所で彼を後ろから羽交い絞めにした。

彼も又「No, Not me」とか言っていたが、兎に角その時私はだれでもよかって、捕まえて少しでも電車を止めておこうと考えて、革ジャンパーを少しゆすった拍子に、何と彼のジャケットの内ポケットか

ら私の黒のパスが飛び出した。その中にはパスポートとポンド、円、ドル紙幣の残ったお金を全てを入れ、それが幸運にもプラット・ホーム側に落ちてくれた。主人に直ぐ拾ってもらい中身をチェックしてもらおうと、パスポート、紙幣全て、それに何と「ボルトガルの旅」とい小雑誌まで盗んでいたのだ。そしてもう逃がしてやってはと主人は言うが、私はドアが閉じないように足で踏ん張りしっかりと止めて、ポリスを呼んでくれと頼んだら、誰かが地上にある交番のようなところへ行きポリスを連れてきてくれた。そして彼を引き渡し私達は帰ろうとしたがポリスが事情徴収の為に少し交番に来てほしいといわれ、地上に上がった。



どうも彼は常習犯でそれもグループだとのこと。私はその時初めてこの旅の為にルイヴィトンのバッグも持っていたので、きっとターゲットにされたようだ。しかし、まさかプロのスリも逃げ切れずに捕まるとは夢にも



思わなかっただろう。どうもそのドアの所に立っていた女性は、その革ジャンの兄ちゃんに手渡された私の黒のパスを見たのだろうと後で思った。しかし瞬時の判断で誰か捕まえなければととっさに行動に出た結果が運を分け、本当にラッキーだった！！その常習犯に私は「これから日本人を狙うとこれよりもひどい目にあうわよ——」って言ったが果たして通じたか。「鴨がネギしょって、」やってくるではないけれど、イージーターゲットだった私たち日本人も彼らはこれからは少しでも警戒するのではないかと思い、その後の犯罪減少に貢献したと自負している。

友人から私の武勇伝を冷ややかに「マイアミバイス」ならぬ「リスボンバイスね！」と言われ、今ならナイフで切り裂かれているかもと。

そしてスリに会うのは怖いけれど 80 年代は犯罪面からは今に比べて凶暴でない良い時代だったのだ。さて、ここで足がブルブルする思い、、とは「ブーブー」とドアがしまろうとする音が無視し、片足を軸にもう片方の足をドアに当てたまま止めていること 10 分くらいで、空港に着いて椅子に座ったら踏ん張っていた片方の足がブルブルとずっと震えっぱなしだった、、、。実は恐怖でブルブルではなく、普段使わない筋肉を使ったが為の震えであったようだ。そして、あの時電車で一緒だった乗客の皆さんは文句を言うわけでもなく見守ってくれていたことに心から感謝をしたいと思います。

さて、今回は空き巣との対面をお話しましょう。それでは、皆さまくれぐれも私の真似をなさらず、ご用心をお願いいたしますー。



「笑い話」一編

石山 望

江戸中期、時まさに宝暦年間、陸奥国南部藩に、山中一源斎という男がいた。この男は、今で言うところの「アマチュア考古学者」。その地では、ちょっと名のしれた男である。出自不明。

ただし変わり者。襤褸を纏いながら、一向に構う風情がない。

陸奥という考古学の宝庫の様な地の利を存分に使い、実にいろんなものを発掘する。そして、それを時の藩主南部利雄（としかつ）公にご献上するのを、無類の喜びとしていた。

ある日、南部公のところに、また一源斎が現れた。手には、何かを包んだ大きな風呂敷を抱えている。

「おう、おう、よく来たな。苦しゅうない、苦しゅうない、さあさ、もっと近う寄れ、近う寄れ。ところで、本日はなにをもってきたかな。」

「はっ、こんなものを、」といって、一源斎は、恐る恐る、風呂敷の結びを解いた。

それを見た南部公、ギョッ！大きく眼を見開いた。

「なんじゃな、こ、これは？」

「はっ、昨日、中尊寺のあたりを歩いておりましたところ、道端に変なものがあると思ひまして、掘り返しました。すると、この人骨が出て参ったのでございます。ひょっといたしますと、藤原何某という、やんごとなきお方のものかも知れませぬ。そのお方の遺骨は、今でも行方が分からないのでございます。もし、そうなれば、江戸中期最大の発掘ものというしだいに仕ります。」

「し、しかし、待てよ、それにしては、この人骨、えらく小さいのう。」

「はっ、”幼少の砌”のものと察せられます。」

「あ、そうか、そうか、それは、でかした、でかした、一源斎。これからは、調べごとに何かと物要りであろう。その折には、遠慮なく、藩に申し出るが良いぞ。さあさ、祝いに、一献進ぜよう。今日は、馳走じゃぞ。」



この、おめでたい南部公、巷でささやかれている渾名を「惣四郎殿」といった。

以上は、私が作り上げた、完全な創作です。そして、笑い話。その笑い話の部分が、明らかに二箇所あります。

江戸時代のことに設定されておりますが、史実に悖るところが多々あるかと思ひます。そこは、私のここでの関心事ではございませんので、何卒、お目こぼしのほどを。

「私、ダボハゼ」

この魚、小物だが、何にでも飛びつく。ただ、テコに合わないとなると、すぐに放り出す。最近飛びついて、まだ放り出していないものが一つある。「落語」である。

最近、日本に年二度帰る。私、京都人であるが、最近は大阪の天王寺に宿をとる。

その近所、新世界の入り口に落語の寄席がある。「動楽亭」という。毎月、最初の20日間は毎日、そこで落語が聴ける。

なんでも、桂ザコバという人がそこに寄席を造ったんだとか。ただし、この人、故人。

私、「日本で大阪天王寺逗留」という次第になるまで、落語なんて、まともに聴いたことなどなかった。京都には、「京都花月」というのがあったが、昨年閉館。ただ、これ、寄席とは言えない。落語を含む、演芸場、というところか。京都人は、あまりに「ぶっちゃけた」感じのものはお気に召さないらしい。

さて、落語である。私、何せ“ダボハゼ”。

従って、最近、この飛び付いたばかりの獲物のことも、大して知りはない。” 知ったかぶり”をして
いるだけである。ただ、落語には、二つ流派があって、東京の江戸落語、そして大阪の上方落語。この
程度のことは知っていた。



しかし、この二つの落語の流派、ただ単に、「言い回し」が違う（江戸
っ子弁と大阪弁）というだけではないということが分ってきた。
江戸のは、「話して聞かせる」。そこへ行くと、上方のは、「面白く、客
を笑わせる」。なあ〜るほど。

それと、制度上、江戸落語の世界には、階級がある。「真打」とかなん
とかいうアレである。

上方に、そういうものはないけれど、その代り、上方落語で、
上の階級に上がるのは、自分より上の人が亡くなると、その
弟子が、その名跡を襲名する。要するに、名前が変わるわけ。



最近の好例。桂三枝が桂文枝になったときは、文枝6代目。彼の師匠が5代目。私、この5代目はとて
も好きであった。まあ、6代目も、創作落語で、立派だと思う。

というわけで、このダボハゼ、日本では大阪に棲息いたすゆえ、なけ無しの知識は、ほとんど、上方落
語でのことに限る。しかし、江戸落語にも、勿論、気に入った人はおられる。

例えば、また故人ながら、立川談志さん。

この人は、非常に才能に恵められておられたが、私、どちらかというと、この人の漫談の方が好きであ
った。すらっとした洋服に身を固め、格好いい。ただ、談志さん、何でも、ズケズケと言われるため、
敵も多かったにちがいない。こういう人、英国にこられたら、大人気間違いなし。



春秋あれこれ

間違って自分の死亡届を新聞に載せられた男が、憤慨して編集部にとり込んだ。「まこと申し訳ありません」と編集長、「もうこうなったら、どうしようもありません。せめてものことに、あなたをあすの朝刊の『出生欄』に載せましょう。そしたら、また新しい人生が送れます。」

* * * *

死を前にした男が、牧師に尋ねた。

「どちらに行くのが、わたしにはふさわしいのでしょうか？」

牧師は答えた。

「どちらにも利点があります。天国は気候がいいし、地獄には、大勢お仲間がいます。」

マーク・トウェイン、大久保博訳

「また・ちょっと面白い話」より

四方山話：駄洒落、洒落そして洒落者とは？

ネット文化サロン

N.O. のメールより

駄洒落について

ある日雑談で、“日本人とジョーク（洒落）”についてが話題になった。仲間の一人から、「しかし駄洒落は嫌だね！」との意見が飛び出した。深く考えもせず、下手なジョークでもその場に合わせて当意即妙な応答は、当人が機転の利く人ではないと出来ない芸当だから、それはそれで悪くはないのでは・・・、なんてつい弁護してしまった。実を言えば、私は駄洒落というものをよく知らないでいた。にもかかわらず、その常套句の一つを知らずに使っていたことがあるとは、まさに、「おどろ木、桃の木、山椒の木」



であった。そのほか、「隣が屏を建てたそうな」、「へー、そうなの」とか、「結構毛だらけ、猫灰だらけ」などもその一つだそうだ。猫灰のあとに「お猿のお尻は真っ赤け」と付け加えたのは、ある関西のコメディアンであったような記憶がある。そして、灰だらけの猫や、赤いお尻のお猿とか、ナンセンスな形容が子供心をくすぐり、面白がって皆と一緒に囃し立てたことがある。他にも、誰もが知っている句として、



カンガルーが考える：カエルが帰る：イクラはおいくら？：布団がふっとんだ：あったかい飲み物があったかい？ などとまだまだ続く。勿論、即興で作られた個人個人のそれは数えきれない数字になることだろう。

広辞苑では駄洒落とは、下手な洒落、つまらない洒落、と言下に決めつけられてはいる。それでも、語呂を合わせての言葉遊びとしてはリズム感もあり、下手な洒落とは決めつけられない方が良さそうな気がする。ただし、同じ広辞苑で洒落の項の説明では、3番目の意味に、「座興にいう滑稽な文句」ともあるので、洒落と駄洒落の境界線は何だかはっきりしていない。

友人に実に語呂合わせのうまいのがいて、その都度、感心するのだが、おかげで本題からそれてしまい、何を話していたのか忘れてしまうことがある。最近の会話では、「A子さんはいつも、つまらないことを大袈裟に騒ぎ立てて、嫌な人」、と私が言うと、「まさに、坊主憎けりや袈裟まで憎い 心境ね」と速球が飛んで来た。何となくピン트가外れているような気もしたので、それ以上愚痴を言うのは止めた。



その昔、川柳のつもりで作った私の駄作に、「ユーローとユーレイの違いは おあしとおあしなし」がある。若い友人から、「ユーレイがお足なしは分かるが、ユーローとおあしの関係は？」と聞かれ、世代の違いを実感した。もう一人の友人からは、「ヨーロッパの幽霊は足があるのよ」とコメントされ、そう言えばハムレットの亡くなった父親は、歩いて彼に会いに来たことを思い出した。意味の有無を気にせず、ナンセンスと言われるのを覚悟で、言葉遊びに徹する駄洒落は、それはそれで会話を和ませる



役目を果たしているような気がする。勿論、本題からそれてしまう欠点もあるのだが。

駄洒落の常套句とは言えないが、日頃の会話に使われる言葉に不可思議な表現がある。チンプンカンプン、ピンからキリまで、ウンともスンとも言わない、シラを切る、目くじらをたてる、目から鼻に抜ける、目が高い、目安がつく、メドが立つ、腹立たまぎれに、イライラする、ケンもホロロに断られた等。それぞれに語源はあるのだろうが、考えてみれば何となくおかしみを感じさせてくれる表現。すぐに思い付かないが、他にもこの種の日本語はまだまだ、ワンサカとあるはずである。

洒落について

酒と落とを綴り合わせると、なぜ「しゃれ」と読ますのか不思議な気がする。物の本にはその語源が色々

と説明されているが、面白いと思えたのに、酒はアルコール飲料の酒ではなく、洗いそそぐとの意味があるそう。そして物事を洗いそそぐとさっぱりすることから洗練へと転化し、そこに戯れ、遊び心が入り込んで、気の利いた、粋な、と言う意味になり、当て字として「洒落」の漢字が使われるようになったそう。

ここまで書いて、私自身はユーモアもジョークも洒落も駄洒落も笑い話にも、格別に境界線を引いていないことに気が付いた。気の利いたと話と言われれば少し躊躇をしてしまうが、面白い言い回しとなると、各々のボーダーラインは無視で、すべてを一緒にしてしまっているようだ。最初に述べた雑談の話に戻るが、その折、最近読んだ小説の中に出て来たユーモラスな箇所を思い出したので、披露してみた。その話とは、ドイツに留学していたある日本人の学生が、ドイツ人の友人からゲーテについて言及された数行の文章である。(鈴木結生氏の「ゲーテはすべてを言った」2025年度芥川賞受賞作 より)



ゲーテ曰く ???

「我々ドイツ人は、名言を引用するとき、だれが言ったか当人の名前を忘れた時や、実は自分の思い付いた言葉でさえ、『ゲーテ曰く』と付け加えておくものだ。何故なら、ゲーテはすべてを言ったからだ。君も何か試してみたら？」と、いきなりそう問いかけられて、日本人の学生一瞬、戸惑ってしまった。限られたドイツ語の語彙の中から気の利いた言葉を思いつくのは難しく、しばらく考えた末、「ゲーテ曰く、『ベンツよりホンダ』とやっとこたえた。これを聞くや否や、ドイツ人は腹を抱えて笑い出した・・・と書かれている。これを読んで、私は腹を抱えることはしなかったが、頬をゆるませ、目じりを下げて「ウマイ！」と口に出してしまった。

何と言ってもドイツを代表する高級車はベンツだと思われる。それにトヨタを差し置いて大衆車のホンダとの比較が、この作者の思い入れを反映してか、何故か私の心をくすぐった。いわんや文豪、政治家、自然科学者、博学者のゲーテの口から、厳かにこの即物的な言葉が飛び出したかと思えば、笑わずにはおられなかった。ただ、私からこの話を聞かされた同席の仲間は笑わなかった。「何が面白いのか？」と反対に聞かれ、シュンとなってしまった。もっとも、小説の背景なしに、この数行だけを引用され、その上私の解説不足では、笑いを誘わないのも当たり前、と今では少々反省している。

と言うことは洒落、気の利いた言葉とは、話し手の意図するところが、必ずしも聞き手に理解されるとは限らないということかもしれない。その場の状況や、雰囲気、性別や年齢差、趣味や物の考え方、見方に加えて、話し手の話術も含め、その受け取り方に違いが出てくるのは当然と言ってもいいのだろう。そう言えば今までに、友人・知人の会話でも、「これは冗談よ！」と慌てて説明したことが何度かあった。反面、私のジョークに依って、相手もジョークで返し、何度かジョークが往還されたケースもあった。そばで聞いていた友人が、まるで「掛け合い漫才」のようだと評したので、内容と言えはきつとお粗末なものであったかと思っている。

その点“笑い話”と言えは、それ自体が完結したショートストーリーだからと、誰にでもわかり易く、簡単に笑いを誘う。気が利いたとは言い難いだろうが、次に言及するのは、あちこちから集めた笑い話である。“既に知られている話”として「出所不明」でご披露。

その1 若返り水

ある日、お婆さんが川で洗濯をしていると、喉が乾いたので川の水を一口飲むと、顔のしわがのびた。もう一口飲むと腰がのびた。もう一口飲むと若い娘になった。



そこでお爺さんに知らせに帰った。爺さんは喜んで川のところに行った。いつまでたっても爺さんが帰ってこないで、婆さんが迎えに行ってみると、爺さんは川のそばで赤ん坊になって泣いていた。



その2 二反の白布ただ取り

ある日、嫁と姑が言い争った。向かいの山にいる動物を見て、嫁が「馬がいます」というと、姑は「あれは馬ではない、鹿だ」と打ち消した。2人は終日言い争ったが、らちが明かず、大岡様に裁いてもらうことにした。その前夜、2人はこっそりと白布を一反ずつ賄賂として届けた。翌日2人が大岡様の前に出向かうと、「あれは、馬でも鹿でもない、馬鹿というものだ」と言って、白布二反ただ取りされた。



その3 へいりんか、ひらりんか

あるところに少し馬鹿な男がいて、主人から彼の知人に手紙を届ける仕事を言い使った。道草をくったので、届け先の名前を忘れてしまった。一人の子供に、手紙を見せて「宛名を読めるか」と聞いたら、「一八十の木木」（いちちじゅうのもくもく）と答えた。どうも違うようにおもえたので、次に聞いたら、「上の字はヘイで次の字はリンだからヘイリンだ」とこたえた。次に聞いた人は「ヒラリン」だと答えた。そして最後に聞いた人が、「これは平林、ひらばやしと読む」と教えてくれた。この話は岡山県の御津郡に伝わる昔話からだが、なんだか以前、落語で聞いたような気がする。「へいりんか、ひらりんか、いちちじゅうのもくもく」と語呂がよいので私の記憶に残っていたようだ。

その4 コンピューター犬

ある日本の企業が最新のコンピューター犬を開発した。アメリカの大企業に売り込む際、先方から3つの条件が付けられた。第1の、1分間に100語のタイプ能力に対し、コンピューター犬は200語を打ち出した。第2の、障害物を規定タイムで完走も難なくこなした。最後の条件は、これは少々難しいですよと前置きされた。「うちで働くには、バイリンガルでなくてはなりません」とニヤリとした係員にたいして、そのコンピューター犬は自信満々に、「ニャーオ！」と答えた。

特に最近ではAIが何かと話題になっている。この間SOASの日本語スピーチ・コンテスでも何人かのスピーカーがそれについて言及されていたようだ。今後、人工頭脳の進歩は計り知れなく、膨大な知識が搭載されるのは勿論、人間の感情すらある程度習得可能かと思えたりする。そしてもしAIに「選択」と呼ばれる思考力もインプットされたら、もしかしたら・・・と何となく空恐ろしくなってきた。それで次のジョークが我々の未来図にならないことを祈りたい。

その5 脳を持ったコンピューター

日本人がイスラエル人に言った。「日本では工場の仕事はすべてコンピューターがやってくれるんだ。脳を持ったロボットがあるんだよ」と。それを聞いたイスラエル人が答えた。「そんな馬鹿な。本当に脳を持っていたら、工場の仕事なんかするものか」

これはロシアがまだソ連邦の一部であった頃であるが、日本の雑誌でイズベスチヤ紙特派員の記事を読んだ。それは自国の社会主義制度についてであり、詳細は覚えていないが、その制度の負の面が勇敢にも列挙されていたようだった。そして記事の最後は、社会主義制度が有効に働いている国家は、ソヴィエト連邦ではなく日本であると結んであったのが、印象に残っている。

その6 意見の一致



マルクスとケインズがああ世で出会い、激しい議論を始めた。相反する思想を持った2人、やはり意見は全く合わなかった。しかし、たった一つだけ結論の一致をみた話題があった。それは「自分の理想を体現した国家はどこだろうか？」に対してで、2人とも口をそろえて、そ



れは「日本だ」と答えた。

洒落者について

最後に「うーん」と考え込んでしまった。洒落者という言葉自体も古臭いし、“オシャレで言動が洗練されている粋な人”なんて、今まで出会ったことがないからである。具体例として誰かそんな人を探していた時、こんな文章に出会った。



・・・私もちょっとはその感化を受けて、髪をぼうぼうと伸ばして見たり、むさくるしい服装をして見たりしたが、間もなくそれが厭わしくなって、以後は努めて文士臭く見えないような身なりをした。洋服の時はキチンと背廣か、黒の上着に縞ズボンか、でなければモーニング、帽子は山高帽を最も多く被ったが、和服の時は結城紬か大嶋に無地の羽織を着、いつも角帯をキリリと締めた町人いでたちで、一見商店の若旦那と云う恰好をしていた。

以上は谷崎潤一郎の「客ざらい」と呼ばれる随筆からの一部。私が思いつく“洒落者”の服装の部は満点であると思えたので引用させてもらった。モーニングに山高帽姿とは驚き桃ノ木だが、紬に角帯をキリリのいでたちは、大阪は船場あたりの大問屋の旦那風で、思わず「細雪」の一場面を髣髴とさせられた。あと半分の言動の部分は、残念ながらご本人のことは彼の作品以外に何も知らないの、想像のしようがない。ただし、この「客ざらい」の随筆から推察すると、言葉遊びや冗談を巧みに使い、物事にこだわらない、洒落な人物・・・とは思えない気もする。勿論、これは私の偏見であるかも知れない。最近の若者には、髪はぼうぼうとは言わないが長髪でポニーテールや三つ編み、むさくるしい服装と思える、穴の開いたジーンズやダブダブのずり落ちそうなズボンのいでたちが多く見られ、“オシャレ”の定義もずいぶん変化してきたものだと、つい、昭和生まれの嘆息が漏れてしまいそうだ。



T. I. のメールより

駄洒落とユーモア

駄洒落のない世界は、クリープのないコーヒーのようなもの。NESS C. bc300

そんな言葉があるように、私の人生にはいつも駄洒落とユーモアが寄り添ってきました。特に人との出会いや日常の出来事の中で、言葉遊びの力を実感する場面がたくさんあります。ここでは、世代や文化を超えて広がる駄洒落とユーモア体験を、エピソードごとに振り返りながら、そのつながりや気づきを綴っていきます。

エピソード1：高校時代の駄洒落体験と気づき



高校三年生の教室。静かに教科書に目を通してしていると、英語担当の片岡先生が「飯塚と浅田、お前らは最近静かだな！いつもの駄洒落はいったいどこに行ったんだ！」と声をかけてきました。一見すると叱られているようですが、そこには先生が少なからず駄洒落で英語の授業を中断させたにもかかわらず、楽しんでいてくれたことを知った瞬間でした。

ここから私の駄洒落人生スタート！

次にいくつかご紹介しますが、オリジナルとどこかで聞いたことがあるものも含まれています。

エピソード2：言葉遊びが国境だけではなく、人と動物を越える瞬間

寒い冬の朝、いつも庭で遊んでいるリスがフレンチドアをトントンとノック。「あなたのお名前は?」と聞くと、リスが英語で「Listen to me」と返してきた——これを面白いと思う方、駄洒落感性100、次に進んでください。

エピソード3：日常の出来事を笑いに変える力

日本からの訪問者とゴルフ場でラウンドしていた時のこと。彼がクラブを振った拍子に腰のベルトがプツンと切れ、「これはまさしくアメリカの大統領だ!」と彼が言いました。「えっ、それどういう事?」と尋ねると、「ルーズベルトだよ」。

エピソード4：国際交流でのユーモアの役割

シンガポール駐在中の日本人が、現地のキャディーさんに「パーを取った数だけキスしてもいいわよ」と冗談交じりに言われた話。普段はなかなかパーが取れない彼ですが、この日に限って5回も成功。ところで、「ホールインワンは?」と尋ねると、「それがあり得ないことが起きたんですよ」と満面の笑み。

エピソード5：ブラックジョークと異文化理解

日本で友人がイギリス人に「この席はシニアのための席なんだ」と電車の優先席を説明していたところ、そこに座っていた80代くらいの男性が突然立ち上げて怒り出した「なんで君はオレに死にや一言うんだ?」

エピソード6：世代を超えた言葉遊び

20代から90代までの集まりで、日本語の年齢の呼び方について話していた時のこと。30歳は三十路(みそじ)、40歳は四十路(よそじ)、そして50歳は五十路(いそじ)、では90歳の呼び方を尋ねられた20歳の男性が「クソ爺一では?」



エピソード7：結末は神のみぞ知る

深夜0時、夫が突然ベッドから起きて「喉がカラカラで水が欲しい」と言い出した。翌日も同じ時刻に起きて「寒いからブランケットを」。翌々日もまた起きだして、今度は着替え始めた。「どうしたの?」と尋ねると、「急いで家に帰らなくちゃ」と真剣な表情。「ここはあなたの家でしょ!」どこかで起きているような話しかもしれない。

エピソード8：異文化間の駄洒落体験



イタリア出身の同僚等とランチをしていた時のこと。パスタを食べながら「アルデンテってどういう意味?」と聞いたら、「歯ごたえがあるってことだよ」と答える、「じゃあ、僕のジョークもアルデンテだね。歯ごたえがありすぎて誰も噛み砕けない!」と言ったら。皆一瞬ぼかんと? 知性が勝り駄洒落力ゼロ!

おわりに:ここまで読んで頂き有難うございます。
あなたは駄洒落力テスト100点!



S. K. のメールより

駄洒落、洒落、そして洒落者とは？

<駄洒落>

私はどうもこのタイトルに関しては、書く資格がないように思う。この思いは N さんの研ぎ澄ました刃物で切り刻んだような洒落に関する引用と分析、そして T さんの長年における駄洒落の創作実体験を拝読するに連れ、自分はこの世界からは遠い存在に生きていると思わざるを得ないからである。

駄洒落に関してはどうも好きになれないでいる。日本に帰った時にテレビをつけると、どの番組でも「お笑い芸人」という人たちが多数登場し、くだらない駄洒落を言い合って、自分たちが大笑いしている。芸人というのは、観客を笑わせたり、楽しませたりするのが仕事のはずなのに、テレビの視聴者そっちのけで、自分たちが大笑いしている。私はしらけて他のチャンネルに変えるが、そこでも同じような番組が流れている。

お笑い番組は人気があるから制作するのであって、視聴率が低ければ制作はしないはずである。ということは私が好きでなくても、多くの日本人がこういった番組が好きで視聴率が高いという事である。やはり私は普通のひとと感覚が違うのだろうか。皆が面白いと思うものが、私には面白くない。自分はあまのじゃくであるとは思っていないが、日本人は本当に心から駄洒落が好きなのだろうか。ただ無責任に楽しめるから見ていただけという人も多いのでは。多分、日本のお笑い番組が好きでないと思うのは私だけではないと思う。そういう人たちが集まって、お笑い番組に対抗する番組を作ったと思うが、そんなのは笑い話にもならず、歯牙にもかけてもらえないであろう。



昔、今は故人の知り合いの在英日本人女性で、日本でベストセラーを出版した人がある。その後いろいろな雑誌社からエッセーを頼まれたり、出版社からは次の本の著作を頼まれたりと忙しくなった。彼女は原稿をいつも手書きで書いていた。なかなかの毒舌家で、コンピューターを毛嫌いしており、「あんな人間的でないものはない」とか「コンピューターは人間を馬鹿にする」といつも毒づいていた。その話が日本に伝わり、やはりコンピューター嫌いの人が集まり、「アンチ・コンピューターの会」の会長に祭り上げられてしまった。

ところが、出版社からは原稿をコンピューターで送って欲しいという要望が強くなり、さすがの彼女も折れて、私のところに「誰かコンピューターに詳しい人を紹介して」と助け舟を求めてきたことがある。要するに芯からのコンピューター嫌いというわけではなく、機械が苦手な操作が分からなかっただけのことなのである。



私の駄洒落嫌いもそんなものかもしれない。要するに自分が気の利いた駄洒落を言うことが苦手なので、嫌いと言っているだけなのかも知れない。

知り合いの日本の雑誌の編集者がロンドンに仕事で来たときに、イギリス人との雑談の中で、その編集者は英語のジョークを一つということで、「エリザベス女王とフィリップ殿下がヒースロー空港に到着したときに、女王はすぐ飛行機から出てきたのに、殿下はなかなか出てこない。女王は待っていた人に「“ヒースロー”と言った」というのである。聞いていたイギリス人は皆ボカンとしている。彼は私にちゃんと説明してくれと頼む。頼まれても Heathrow と He is slow の間には共通点がないのである。日本人は r と l の発音が区別できないとか、th と s の発音は同じに聞こえる、といったような説明をしても無駄である。説明をつけて笑わせる駄洒落は最低である。

英国にも駄洒落はある。パン (Pun) といわれる語呂合わせの様なもので、一番典型的なのはフォーチュン・クッキーやクリスマス・クラッカーの中に入っているパンだ。例えば、A bicycle can't stand alone. It's two-tired! とか I used to be a banker, but I lost interest. といったようなものだ。日本の駄洒落とちょっと違って、発音が似ている言葉を重ねるのではなく、ちょっとひねった言葉遊びであ

る。一番最近のものでは、Why doesn't Andrew Mountbatten Windsor publish his memoir? Because he lost his title. というのがある。

<洒落>

一昔英国でよく読まれていた本に“How to be an Alien”というのがある。私も好きでよく読んだが、今でもよく覚えている章がある。「イギリス人男性が2人でパブのカウンターの椅子に座って世間話をしながら飲んでた。その時突然 IRA の爆弾が大音響とともに爆発し、パブ内は騒然となった。幸い被害はなかったのだが、一人の男性は驚いて椅子から滑り落ち、床に腹ばいになってしまった。もう一人は悠然と椅子に座ったまま飲み続けていた。滑り落ちた男性は、背広の誇りを払いながら立ち上がり、冷ややかな目で彼を見ている男性に向かって、『君はあまりのショックに腰を抜かして動くことが出来なかったのかい』とやり返した。

弱身に立たされた人間がユーモアでやり返す、というのはイギリス人の得意とするところである。特に気の利いたウイットのある洒落こそ人生の潤滑油の役割を果たしているのではないだろうか。イギリス人はセンス・オブ・ユーモアがあるとされている。中にはちょっとサタイア的な要素のあるものも多いが、言葉のやり取りで相手を負かすのはこのユーモア精神である。

イギリス人に人気のあるテレビ番組にBBCの”Have I got News for you?” というのがある。主に話題の人や政治家を取り上げて、徹底的にこきおろすのだが、直接的表現ではなくユーモアとジョークを織り交ぜ、ウイットに富んだ攻撃法なので、観客や視聴者は大笑いをする。どこかの国の大統領だったら、自分が攻撃されたら、即訴えると息巻くに違いないが、英国では訴訟問題は起こっていない。それだけイギリス人はユーモアに対して寛容性を持ち、重要視しているのだろう。

私は洒落というのは嫌いではない。日本の古典落語を聞くのは大好きである。落語にはウイットがあり、ユーモアのセンスがあり、そして、聞くものをストーリーの中に惹きつける魅力を携えている。あまり聞く機会がないが、日本へ帰る飛行機の中では映画を見るよりも落語を聞くのが楽しみだ。

洒落の定義は難しいが、私にとっては人生の機微に触れ、普通の人とは違った目で観察し、それをさりげなく表現する。そこにユーモア精神とウイットが混在していれば最高の洒落になる。こんな風に考えているから、洒落を言うのは難しいし、洒落について書くのも苦手だ。それでも洒落は好きだし、友達に会った時や、パーティーの席では洒落の一つも言いたいと思っているが、残念ながらなかなか思うようにはいかない。

やはり、私には洒落や駄洒落に関して書くことの資格は無いのかも知れない。



<洒落者>

Forget about it!



ネット文化サロン今号の投稿者
加藤節雄・飯塚忠治・小川のり子

春の到来

田村陽子

2月下旬。あちらこちらで cherry plum の木にうす桃色の桜に似た花が、まるで雪が降ったかと思えるくらい咲いている。眩しい位に美しい。



我が家の後ろの庭に出てみた。すると小さなかawaiiい紫色のクロッカスの花があちこちに咲いている。すぐ傍には植えた覚えのないクリスマスローズの白い花が嬉しそうに咲いている。左手を見ると真っ赤な椿の花がうつむきかげんに咲いている。これは5~6年前に苗木を買って植えたのだが今は大きく成長して幾つもの花をつけている。この椿のそばに植えたはずのないクロウブの木が大きく成長して良い香りを放っている。クロッカスの花の近くにもクロウブの木とヒイラギがやって来て私の背丈位になっている。

椿の近くに、もみじの苗木を植えて、1メートル位に成長したが、今は落葉して丸坊主だ。椿ともみじの根元にはプリムローズと水仙が咲いている。チューリップを植えたが1度花が咲いたきりで掘りかえしてみると球根が腐っていた。水はけが悪かったのだろうか。それで今は鉢植えにして楽しんでいる。

もみじの木の隣りにハイビスカスを植えた。今では大きく1メートル以上に伸び初夏にはピンク色のきれいな花をつける。ハイビスカスのすそにつつじを植えた。小さな木で花も小さく何年たっても上に伸びない。がピンク色のかawaiiい花をつける。ハイビスカスの隣りにさつきとアガパンサスを植えた。コンウォールを旅した時あちこちに咲いていてあの大きな花火のような咲きっぷりに惹かれたのだ。



5月には香りの良いすずらんが一面に咲くでしょう。以前友人から1株いただいたのだが5~6年も経つと1メートル四方に広まって良い香りを放ってくれる。また5月にはいただいたジャーマンアイリスの紫の花が咲くのが楽しみだ。日本のアヤメのようだ。

つる薔薇の赤とピンクの花が咲くのも5月頃だ。リージェントパークの薔薇園のように派手ではないが、ひっそり咲く薔薇も良いものだ。



我が家で咲く秋の花はただ一つ。野菊だ。

これも知らぬ間にどこかからやって来て根付いて青紫色の花をつける。大勢で咲くと見事だ。思わず小学生の時に歌ったように、口ずさんでしまうのだ。

今の家に住み始めた頃、紫陽花の花が玄関前に咲いていた。赤味がかかったピンク色だった。イギリスの紫陽花はピンク色なのだ、と思いこんでいたがコンウォールで日本のような青紫色の紫陽花を見てから、土を酸性にすれば良いと聞いて、

鉄分をまいたり錆びたくぎを埋めたりしたが駄目だった。

ピンクはピンクの良さがあるのだからないものねだりをするのは止めにしよう。ここロンドンでも色々な人種が混じり合って生活している。皆んな違って皆んな良い、の精神がなかったら、すぐに論争になったり戦いになるから気をつけたいものだ。

植物の世話を通して私も育てられ、教えられ元気を貰っている事に感謝したい。

つばき 「椿の花」に思う

一 静 齋

寒い季節に花を咲かせる植物の一つに椿がある。

椿の花は、終わりに、ひらひらと花びらが一枚ずつ散るのではなく、「ポタッ、と重く、花そのものの形で落ちる」ので、「縁起が悪い」と言われ、わが家では、仏様（＝家の仏壇をそう呼んでいた）に飾るのはタブーであった。縁起が悪いと言う理由は、「首切り」（＝首を切りられて、頭がポトリと落ちるの）を連想させるからだそうである。私の習った生け花（遠州流えんしゅうりゅう）でも、生け花の素材として椿を使った記憶が無い。それは、私がまだ初心者だったからかも知れないし、ただ単に、花材としての椿が手に入らなかっただけなのかも知れない。

元来、遠州流（華道）は茶道から発展した生け花の流派だと先生から聞いていたから、遠州流そのものが「椿の花」と全く縁が無いと言うことではないと思う。茶道を学び楽しむ茶室の床間（このま）に、椿が美しく生けられている写真を見たことがある。私の頭の中では、茶道と椿は非常に結び付きが強いのである。



教会の椿

私は、数年前に、ロンドンの rambling club のメンバーとテムズ川沿いにある Fulham Palace を訪ねたことがある。Palace の庭を歩き廻っていると、ふと、「一重（ひとえ）の赤い椿の花」が目にとまった。ロンドンの個人宅の庭に、時折、見事な八重咲きの椿が植えてあるのを見かけることがあるが、「一重の椿」は珍しいので、私の注意を引いたのだと思う。

さて、最近の出来事。2025 年 12 月。ロンドンの Pimlico (Victoria Line) の駅近くにある教会で開かれている、「日本語でお喋りを楽しむ会」に、参加させて頂いた。「気さくで、遠慮なくお喋りができて、楽しい会よ」と、お誘い下さった友だちの言葉通りであった。

方向音痴の私は、未知の場所に行く時は、必ず前もって地図で周到な下調べが必要なのであるが、この時は、「駅で待ち合せて一緒に行きましょう」と言う優しいお声掛けであったので、まったく気楽であった。駅までは、地下鉄の電車で簡単に行けた。駅で二人の古くからの友達と落ち合った。それから、久しぶりに会ったらしい二人の友達は、お喋りに忙しくしながら私を先導してくれた。私は、辺りの景色に気を取られながら黙ってついて行った。

教会へは裏口（？横口）から入った。使わせて頂く部屋が裏口近くにあったためであろう。入り口近くまで歩いて行った時、黒い鉄柵内に、突然、「一重のピンク色の椿の花」が目に入った。「あら？日本の椿かしら？」

この教会の椿の植えられている位置が、教会の建物の端（？裏）で目立たない所だったことが、Fulham Palace の椿が植えられていた位置と共通するところがあったか？私は、Fulham Palace での日本風な椿との出会いをありありと思い出した。それで、私は、もう少し、日本風の椿について知りたいと思った。

千利休は、「花は、野に在るように」と言ったそうである。茶室の床間に飾る茶花（ちゃばな）には、華やかな花ではなく、野に咲く素朴な花を手折って生けることが理想だったようである。従って、椿なども、藪椿（やぶつばき）のような、人の手で品種改良をされていない、自然の花が尊ばれたことであろう。

椿の花は、花弁が 8 枚以下のものが、「一重（ひとえ）咲き」、それ以上のものが八重（やえ）咲きと分類される。



また、花の咲き方により、猪口（ちょこ）咲き、筒咲き、ラッパ咲き、碗咲き、平開咲き、桔梗咲き、その他に区別されている。

茶道の世界は、「わび・さび」の世界である。「侘び・寂び」の世界を作り出すには、それにふさわしい空間と素材が必要である。小さな茶室の、小さな床（とこ）の間に生ける花も、現在、洋式の結婚式場で見ると、豪華絢爛な雰囲気（かも）を醸し出す物とはまったく違って来るだろう。



紅侘助（べにわびすけ）

茶花用の椿としては、小輪で、一重。そして、大びらに開かない。筒咲きのような、開きかけの時の形を最後まで保つ。そのような花形が、慎ましやかで奥深く、優雅で上品であると評価され、重宝（ちょうほう）されて来たようである。そして、このような条件を満たす椿の種類に、「侘助（わびすけ）」と呼ばれる種類がある。侘助にも、いくつか種類があり、早咲きのものは、11月頃から咲き始め、冬の間ずっと咲き、翌年3月頃まで咲き続ける。このような椿は、花の少ない寒い季節の茶花として、文字通り、有難い存在である。

さて、ロンドンで見える一重（ひとえ）の椿は、日本椿であろうか？

「Camellia Japonica 日本椿 (= 藪椿)」について、

「藪椿（やぶつばき）」は、日本列島の形成と関係があるようである。



日本椿（藪椿）

地球が白亜紀（Cretaceous クレタセシャス）の後、時代は、古第三紀（Paleogene パレオジェン）、新第三紀（Neogene ネオジェン）と続くが、Neogeneのはじめ頃の中新世（Miocene マイオセン）と呼ばれる時代（の、今から2000万年~1500万年前）に、ユーラシア大陸地殻の東端に亀裂が起こり、たび重なる地震・火山の影響で亀裂は大きくなり、海水が流れ込み、地殻は引き裂かれ、孤島ができ、日本海ができ、日本列島ができた。

大陸から引き離されて出来た日本列島は、大陸から離れる時に、中国の南東に分布していた *Camellia Chekiangoleosa* を乗せて東北へと移動した。長い地質学的移動の期間に、気候の変化に会い、それに適応しつつ「日本椿」となった。

「椿の木」と「お茶の木（茶樹）」との関係、

Camellia Chekiangoleosa、*Camellia Japonica*、*Camellia Sinensis*、*Camellia Assamica* は、全部 *Camellia Genus* 「カメリア属」に分類され、次の細区分（種 = species）で *Camellia Chekiangoleosa* と *Camellia Japonica* は、「椿の木」の「種」に、*Camellia Sinensis* と *Camellia Assamica* は「茶樹（ちゃじゅ）」の「種」に分類される。これは、犬、狼（おおかみ）、コヨーテが同じ *Genus* 「属」に区分され、次の細区分「種」で、「犬種」、「狼種」、「コヨーテ種」と分類されるのと同じ分類法である。さらに、「犬種」の中には、土佐犬、チワワ、シェパード、セントバーナード、その他、諸々の種類が、「狼種」の中には、北極狼、北海道狼、モンゴリア狼、アラビア狼、その他、諸々の種類がある。「椿の木の種」も自然に変化したもの、人口交配によってできたものなど、多品種があり、東京の神代植物園には、現在、約250種の椿の木を集めた「椿園」があるそうだ。

私が12月にPimlicoの教会で見た日本風の椿は、もしかしたら？ Cornwallに住むイギリス人のWilliamsと言う人が、日本種（と中国種）を交配させて1923年に作り出した品種で、Cornwallの地名を取った、St. Ewe（セイント・ユー）と呼ばれるものであるかも知れない。

「Camellia Japonica 日本椿（にほんつばき）= 薔椿（やぶつばき）は世界中の椿の木の原種（げんしゅ）= 祖先種（そせんしゅ）である」と、言われている。

疑問 1：なぜ、椿は、Camellia カメリア、と呼ばれるのか。

答え：スウェーデンの植物分類学者リンネが、17 世紀に椿をヨーロッパに紹介したボヘミアの宣教師 George Joseph Kamel（カメル）に敬意を表して、Camellia と名付けた。

疑問 2：なぜ、つばきは、つばき、と呼ばれるのか。

答え：厚葉（あつば）樹、または、艶葉（つやば）樹がなまった呼び名。（有力な説）

疑問 3：なぜ、つばきは椿と漢字で書くのか。：

答え：榎（えのき）、楸（ひさぎ）、柊（ひいらぎ）などと同じで、木編に春夏秋冬を合わせた当て字。



帰郷

園部健治



皆さんがこの英国春秋 2026 年春号を手にしている頃、当方は英国を離れ、実家（福島県）で（葉桜になっているかもしれない）桜を楽しんでいることであろう。というのも、3 月末日で 36 年 10 ヶ月奉職した外務省を卒業となり、よく言われている“第二（とやら）の人生”を送り始めているからである。ただし、花粉症持ちとしては、この時期の日本で過ごすのは本当に辛いので、暫し難儀の日々が続きそうである。

卒業半年前の昨年 9 月頃、“卒業までの半年で答えを出すというけれど...”の歌（『青春時代』）が耳の奥で聞こえていたが、これまでの外務省人生を振り返り、何らかの答えを出すことはなかった。離任が近づけば近づいたで、引っ越しやら後任者への引継ぎで、あっという間に時間が過ぎてしまったというのが正直なところである。

そうした中でも、卒業までの 4 年間で英国で勤務できたことは誠に光栄であったと感じている。しかも、英国は 2 度目の勤務であり、なんと恵まれていたことかと感謝もしている。

そして、今回の勤務では、特に英国日本人会の皆様とは、この英国春秋、二水会、ヘンドン日本人墓地清掃・供養、忘年会等と一緒に過ごす機会に恵まれ、今回の英国在勤の良き思い出として残っている。この場をお借りして改めて感謝申し上げる次第である。

人生百年時代、定年後に何をするかは（定年前に）前もって準備しておくことが大切とよく言われていたが、実際そうして来たかと問われれば、到底、首を縦にはふれない。

多忙を理由にはできないが、和書・洋書で読みたい本が山ほどあり、特に英国にいることから、離任前は洋書を買いまくった結果、荷物が石のように重くなってしまった。それこそ晴耕雨読の生活を送ることを楽しんでいるが、それ以外に何かしてみようとも考えておらず、定年後に考え始めることになっているのが正直なところであるので、最早、手遅れかもしれない。

そもそも、東京に自宅がないこともあるが、東京にいないさしたる理由もない。しかも、実家は既に当方の名義になっているので堂々と住めるはずであるが、少々、勝手が違う。

地元の高校卒業後、東京近郊で大学生活を送り、その後、縁あって日本と外国での勤務を繰り返す中、実家で連続して一週間以上暮らした記憶がないのである。日本にいるときは、盆・正月の帰省、海外勤務時には一時帰国した際に実家に滞在しても、東京と行ったり来たりしていたので、“暮らした”というより“（一時的に）滞在した”というのが実感である。父が生前、嘘か真か、（海外勤務中で一時帰国中の）当方が実家に長くいると、あの家の息子（当方）は、最近、いつも家にいる（見かける）が、何もしていないのではないかと見られる（外聞）のを随分と気にしていたことを思い出す。また、“（まさに）ホテルとして使えば良い”とも言っていたことが印象に残っている



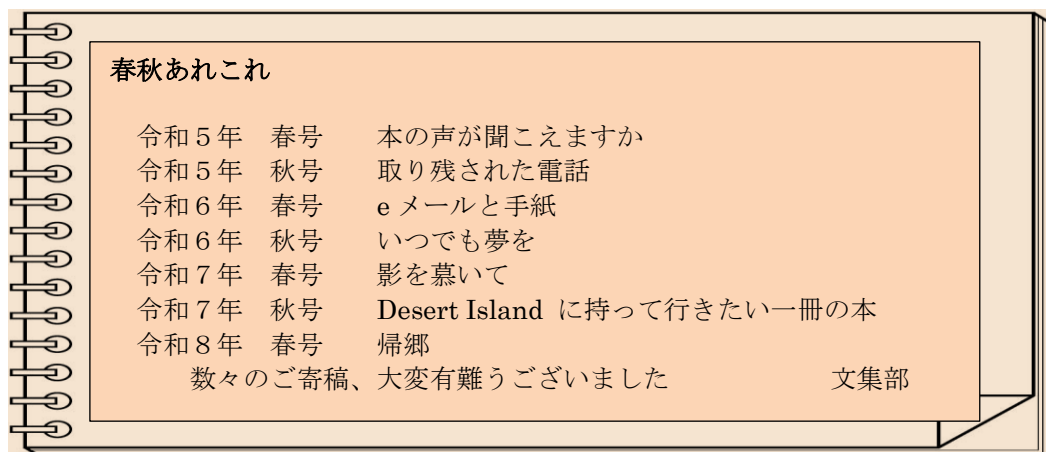
父の世代（昭和一桁）からすれば、また、田舎だから余計にそう感じたとしても致し方ないと思っている。今度は、ある意味、そんな“肩身の狭い思い”をすることなく、傍目を気にせず堂々と暮らせるはずである。まして、今回は身体（健康）を含めて“リセット”するには絶好の機会であり、このタイミングを逸してしまうと、それをせずにズルズルと生きていくことになりそうだからである。

海外に暮らすとは、いかに居心地が良い国でも、多かれ少なかれ心の負担を感じているはずではないかと思っている。それを承知した上で暮らす以上、文句を言っても始まらないが、無理は禁物である。どこにしようが、特に心の安寧をどうやって得ていくのかは大きな課題であろうと思う。

英国日本人会の会員数が増えてきているのも、会員にとっての心の安らぎを与えて来てくれているからではないかと思っている。まさに設立当初の理念が生きているからではないだろうか。

その英国日本人会は、今年、設立30周年という節目を迎える。誠に喜ばしいことである。これから益々盛会となることを祈念して、過去3年にわたってお世話になったこの『英国春秋』を終えたいと思う。

改めて会員の皆様、大変お世話になりました。そして、有り難うございました。どうぞ元気にお過ごしください。



大阪見聞録

浜口理枝

2025年7月7日より12日まで、外国会社経営者社長の方々27名をビジネス経済交流目的に英国経営者協会（Institute of Directors <https://www.iod.com/>）日本グループリーダーとして初の試みの日本交流訪問団を大阪・東京に引き連れて行ってきました。



2年近く入念な準備をして臨みましたが、交流団の公式日程が始まって有意義なディスカッション・懇親会・ネットワーキングなど大変実りある交流が実現し、訪問団全員が「予想や期待以上の素晴らしい交流が出来て訪日交流団で来れて良かった！」と口々に喜んでくれました。

これも大阪府・市のリーダー吉村知事、山口副知事、横山市長、高

橋副市長及び担当職員の方々皆さまの献身的な受け入れ態勢を組んで、事前の準備・3日間の同行など暖かい歓迎をして下さったお陰です。

特に、選挙期間中真っ只中であったにも関わらず、吉村知事が分刻みスケジュールの多忙な中、特別に時間を割いて高橋大阪副市長と共に英国経営者協会の交流団員に会って頂いたお忍び会合は、言葉に表せないほどの感動のひとつでした。

日本交流訪問団に参加してくれた友人のトレンチャード子爵卿やゴヤル MBE のお二人から、「りえ、これから大阪のためになる事であれば僕はどんな事でもさせて欲しい！」と言われて、「大阪大好きなファン」になってくれました。特にゴヤル氏は、吉村知事が着ていたウィンドパーカーを知事から直接手渡しして贈られて、子供のように喜んで私や交流団員全員に見せびらかして自慢していたことを鮮明に覚えています。



さて、英国経営者協会日本交流団のオフィシャルスケジュールが終了した7月14日から、私は一人だけ残って、7月後半を東京で交流団を受け入れて頂いた経済産業省、東京都庁、経済同友会、JETRO など各組織にお礼参りに伺いました。

また、8月1日に零細・中小企業の町工場がひしめく墨田区で、英国の Oxford 近郊にある Harwell で11月11日に開催された Harwell Japan Day の発表会を企業の社長や幹部をお招きして講演致しました。

その後、8月5日に大阪に移動して、大阪府ものづくり推進課の馬場部長や岡本課長のご協力のもと、Harwell Japan Day の発表会を中小企業や工場がひしめく東大阪の MOBIO（ものづくりビジネスセンター大阪）で板金や塗装会社の社長や幹部をお招きして講演致しました。参加者から質問が飛び交い、質疑応答が熱心に繰り広げられて、会合終了後も皆さん残られて質問やネットワークされてとても良い会合になりました。参加された田尻薄片製作所の田尻社長は英国に行かれる事を決定されました。

<https://youtu.be/-MhA64QvQ9c>

今回英国経営者協会の交流団員をイギリスに送り出して、日本に一人残った一番大きな理由は、日本国内で長い間痛烈な批判の嵐の標的だった「大阪・関西万博2025」開催を微力ながらも応援したいという気持ちでした。

また振り返れば55年前の1970年に開催された大阪万博の付近の千里山に住んでいたにも関わらず、幼な過ぎて行きたくても行けなかった無念さ・後悔の気持ちからでもありました。毎日のように YouTube や TikTok など SNS を使って一人でも



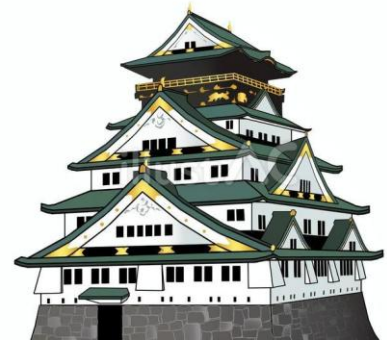


多くの方に来て頂けるように歌ったり、万博音頭を踊ったり、やれることは何でもやる覚悟で一生懸命発信されていた吉村大阪府知事の SNS を英国で見えていて、その一助になりたいという気持ちもありました。

大阪・関西万博会場エントリー一切符購入の情報が錯綜して、なかなか手に入れるのに時間がかかりましたが、忍耐強くサマーパス（8

月中行き放題チケット）をオンラインで購入出来ました。今夏の異常なまでの熱波で体が溶けそうになるほど酷暑の中、熱中症で救急車に運ばれる人を横目にして、汗だくになって歩きながら、何度も何度も万博会場に足を運びました。

OSAKA EXPO に来るためにはるばる英国、香港、欧州の海外から来た友人知人にも万博会場内を大屋根リングの上を歩いて全体を見せながら会場内を案内して、大変喜ばれました。また、英国パビリオンなど外国パビリオンからもセミナーなどにご招待を受けて、参加して来ました。



この3週間半にリュックサックを両肩にかけ、スーツケースを片手でゴロゴロ引きながら、夢洲（ゆめしま）、住之江公園、弁天町、今里、布施、梅田、東梅田、中崎町、難波、淀屋橋、天満橋、阿波座、鶴橋、動物園前駅など大阪中をジプシーのように転々と駅近銭湯などに泊まって歩き回り、そのおかげで50年近く外国に住む人間の私ながら、大阪の地下鉄やJR線を使って大阪の繁華街をほぼどこにでも行けるようになり、いっばしに大阪の街をマスター出来て自信がつけました。

その間、丁度難波のホテルに滞在していた頃に、消防士お二人がお亡くなりになった道頓堀の雑居ビル火事事件も目の当たりにしたり、大阪万博会場への唯一の電車である中央線の電気系統の不具合で万博会場に朝方近くまで閉じ込められたりという予期しない出来事に遭遇しました。

これらの体験をもとに、外国人の方々の目を見て、耳で聞き、実感した声を代表して「大阪見聞録」の実体験としてお届けして一般庶民の目、外国人の目からの報告致します。

- 1) 地下鉄・JR線はかなり網羅されていて、危惧していたよりもスムーズに万博会場まで移動しやすかったです。願わくば、乗り換え駅の英語サインが駅のプラットフォーム壁面ではほぼ見つけられなかったのが、ウロウロしていた外国人の姿がプラットフォームや改札口で多く見受けられました。駅に中央線への乗り換えの英語表示があると外国人には親切でわかりやすいと思いました。
- 2) 万博に来た観光客にとってスーツケースの預かり場所は死活問題です。弁天町にあるオフィシャル公式荷物預かり場所（電車の高架線下でとても不便な汚い場所にある）では、一番小さなスーツケースで1500円も徴収されて、駅のコインロッカーであれば、400円～600円で済むのに、かなりの金額の違いが見られました。また、外国人が多く来る場所に英語の話せないスタッフが担当している場合が多く、観光客は質問に答えてもらえず対応に困っていた状況を目の当たりにすることが多々ありました。
- 3) 日本に来る外国人にとって、移動ツールのGOOGLEマップが唯一の頼りであるにも関わらず、WIFIが準備されているレストランやカフェが外国に比較してかなり少なく、月額課金制の携帯WIFIを持っていない外国人はかなり苦労していました。
- 4) 私は8月13日(水)夜間の中央線電気系統故障事故に巻き込まれ、現場にいたので、何が起きていたのかを事実に基づいて報告します。
午後8時前後から東口会場が突然封鎖されて、誰も出ることは一切禁止されました。私は東口のそばに座って待ち続けていましたが、場内アナウンスは、「ただいま夢洲駅が大変混雑しており危険です。慌てず警備員やスタッフの指示に従いゲートから外に出ないように行動して下さい。パニックにならないで下さい。」とおどろきなアナウンスが繰り返され、何が原因なのか？なぜ電車が止まっているのか？今後の見通しはどうか？などの説明は閉じ込められた人々に朝になるまで全く



れた人々の座っている現場には全く伝わっていませんでした。

知らされず、心身ともに相当過酷なストレスでした。午後8時過ぎから深夜にインターネットで調べても故障の情報が全く掲載されていなくて、ようやく翌日になって、吉村知事が午後11時に既に緊急事態宣言を出されていたことが分かって、「さすがリーダーシップある吉村知事！」と責任意識の高さに頭が下がりましたが、実際に万博会場では、幾つかのパビリオン会場が開放されて横になれる場所が確保されていたこと、飲み水のボトルが手渡されていたことなどの情報は広大な万博会場に閉じ込めら

「万博会場責任者がどこにいるのか?」「どんな対処をしているのか?」など現場の庶民には伝わらず、お粗末なほど全く指示系統が機能していなかったのが事実でした。翌朝のメトロ幹部による緊急記者会見では、技術的な報告でほとんど終始して、非常事態の準備や指揮系統が機能していなかったことに対しては、何も触れられていなかった事はとても残念でした。外国でこんな事態が発生して、原因や対処方針のアナウンスが何もアナウンスされなかった場合には、フラストレーションや怒りに煽られた人々が暴徒化して物凄い犯罪事件に発展していたことは間違いありません。

しかし、電車が再開された旨のアナウンスがされた時に、なっとなっ何と!待ちくたびれて疲れ切った多くの日本人から自然に拍手が出始めた事にはとても驚かされました。東北大震災の被災者が水供給を待つ行列で、「誰もキュー・ジャンプをせず、お互いを思いやって譲り合って整列されていて日本人は素晴らしい!」と世界中の新聞の紙面に掲載され、外国メディアに褒められた事がありましたが、日本人は怒りを感じていても、その怒りを向ける矛先が見えないと文句も言わず、従順な民族であることを垣間見た経験でした。

- 5) 約2ヶ月日本に滞在して多くの会合に大阪の地下鉄やJR線を使って移動して日々実感したことは、公共交通機関である電車やバスの中では、英語や多言語のアナウンスがひっきりなしにずっと流れ続けていますが、日本語の分からない外国人の目から見て「何が必要な情報なのか?」「何が足りないのか?」「どんなおもてなしをすれば困っている外国人に喜ばれるのか?」という相手の立場に立った対応が、緊急事態のみならず、日常の時空間でも必要である事を困っている外国人に遭遇し、目の当たりに見聞きしました。
- 6) 毎朝毎晩、夢洲(ゆめしま)駅や繁華街の駅を電車で移動をしていた私にとって、大阪ほどエレベーターやエスカレーターが駅や地下のショッピングモールで整っていたのはとても感心し、大変助かりました。インバウンドの観光客にとって旅の疲れは大きな荷物の移動から発生することが多いので、その点、大阪は都市構想の基盤がかなり整っている事を実感しました。
- 7) 大阪・関西万博会場に何度も何度も足を運んで自分の目や耳で見聞きしたのは、国内外の日本人や多くの外国人が集い、美しい大屋根リングや各国のパビリオンの素晴らしさにかたずをのんで「大阪・関西万博に来て良かった!」という喜びの大反響の声を聞き、色々批判コメントや事故など起こっても当初のネガティブな批判を見事に覆して、世界中から3000万人近くもの観客が押し寄せて、今も万博マスコットのミャクミャクグッズが売れ続けていて、大成功している事を報告して大阪見聞録と致します。



筆者：大阪府知事顧問

『英国春秋』 2026年 春号 (No48)
発行者 英国日本人会
編集者 小川のり子
原稿送付先 英国日本人会・文集部 *

タイトル フリー 又は特集に寄せて
字数 A4 1～3枚 (ワード添付)
締切日 2026年9月5日 (秋号)
* bunshu@japanassociation.org.uk